

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.

留甚一留

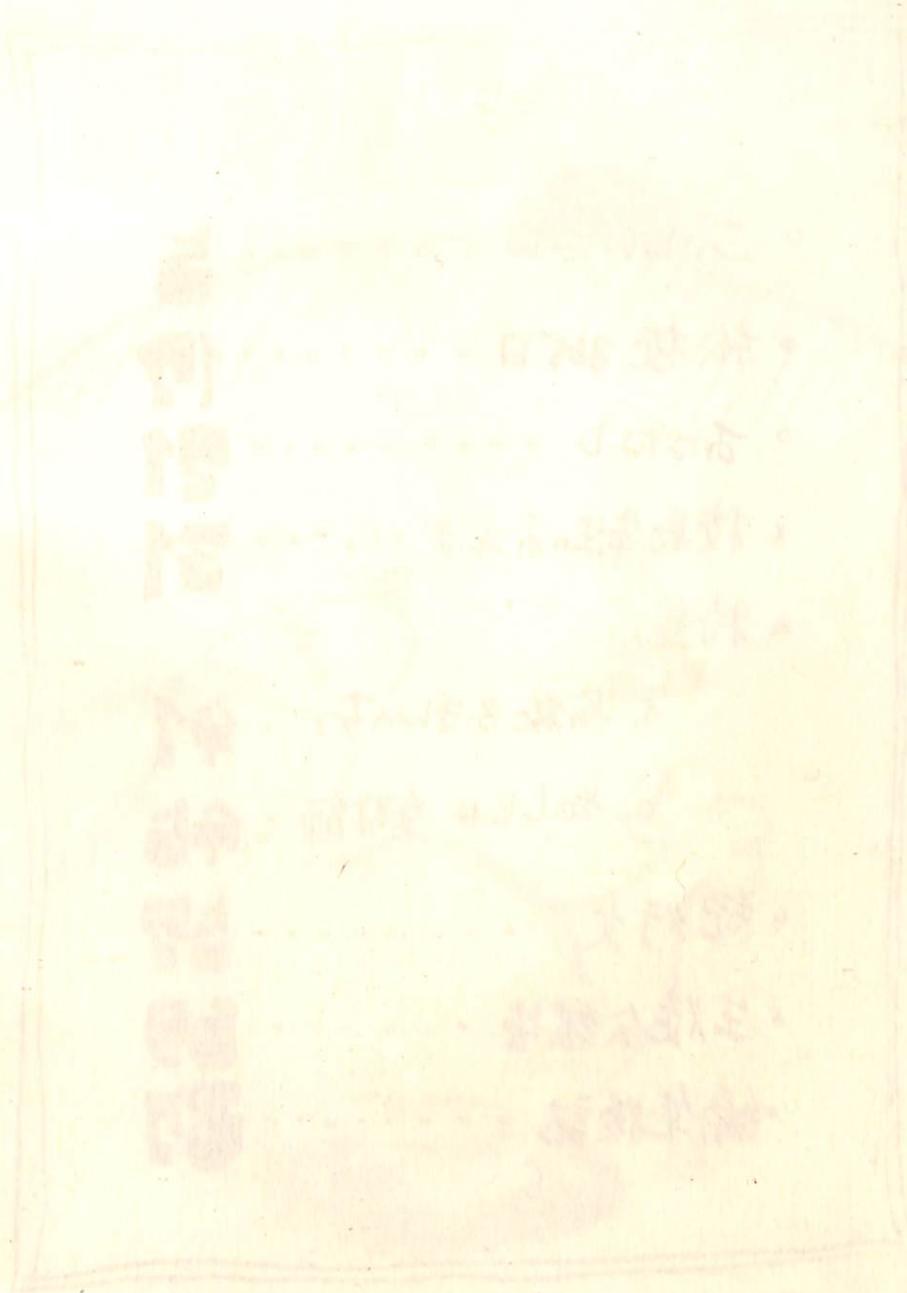
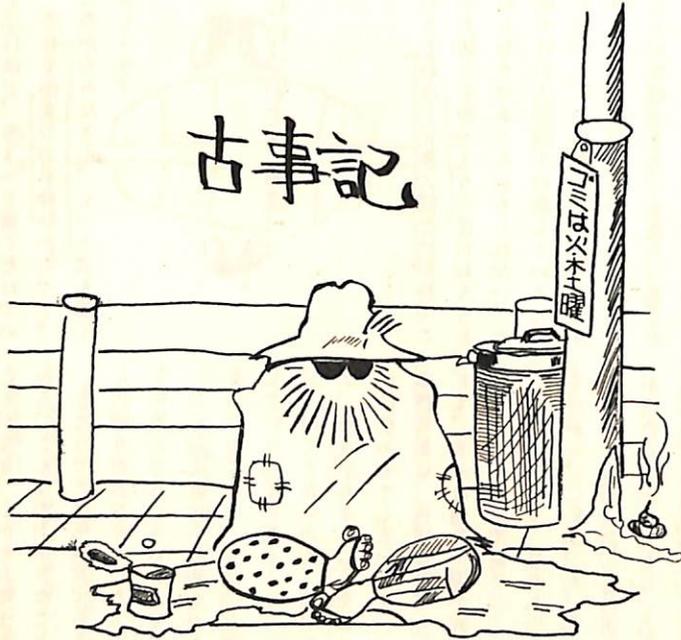
もじ

| | |
|------------------|----|
| ○ ぶいけわばん | 5 |
| ○ 松校365日 | 17 |
| ○ おはなし | 21 |
| × 校長先生のおこぼ | 31 |
| △ 特集 | |
| 1. 松校ぶきわち | 41 |
| 2. かしは教師 | 45 |
| ○ 紀行文 | 57 |
| × 生徒会報告 | 69 |
| ○ 編集後記 | 81 |



前原市史

古事記



文を書きましよう

僕が、ル・クルール19号を読んで感じたことは、なんでこんなにも詩が多いか、ということとです。なんと11もあるのです。この本にはクラブのこと、委員会のことが書いてありますが、その他の大半が詩なのです。これではちょっと気にかかります。みんなの詩的感覚が豊かなのでしょうか。それなら、何も言うことはないのですが、事実はそうではないと思うのです。これはひとつのまとまった文が書けなくなっているのではないのでしょうか。だから、ページ数を増すために、詩ならば、なんとか適当に文句を並べれば、ということになるのです。こういうことだから、感想文も、作文も、うまく書けるはずがないのです。こんなことでは大学入試の記述式問題で、困るのはあたりまえです。

そんなことにならないように、みなさん、文を書きませんか。日記にその日のことを考

えて、二〜三行ほど、ちょっと書くだけでいいのです。それで作文の力が伸びるのです。だから日ごろからみなさん、もっと文を書くようにしましよう。

真心についての論文

真心というものは、元来人間だけが持つことのできる大切な宝物のように思われてきた。確かにそのとおりであったかもしれない。なぜなら人間だけが人間同士の話していることによつてその「人」の気持ちが理解できるからで、この場合もし人間以外の生物の「話している」ことが理解できるとしたら、そこにも彼らの真心というものを発見できるかもしれない。しかしそれはそれで、宝物のままなのである。

文明の発展と真心との相関関係というものを数年前から考えるようになった。たとえば年賀状である。年始の挨拶にその家へ行くことができない時、わずか七円か八円で済ます

ことができ、しかもお年玉が付いているのだから、こんな安上がりなことはない。

ところでこの年賀状であるが、最近ずいぶん色刷りがあざやかになってきた。家にも毎年何枚かそういうものがくるが、それを見るたびに何となく一抹のむなしさを感じるのがある。そこには、表面的な美しさのみが存在している相手の真心というものが、少しもにじみ出てこないのだ。受け取る方にしてみれば、前者があまりにも光輝くのに対して、後者は色あせてしまいかえって「美しい年賀状」を逆効果に、再現させてしまうのである。そして、そんな通り一遍の挨拶状が、毎年毎年送られてくるのである。

これに対して、これらの中に墨で書かれたものが一、二枚あった。かつて自分も出したことがあるが、そこには書こうとする気持ちが込められているから、必然的に真心が込められることになる。

もう一つあげておこう。それはやはり、最近の伝票や定期券や申し込み用紙類である。氏名を喜ぶ所にあらかじめ「様」と印刷されている。これを見ると必ず、これを印刷した人（またはその依頼人）の心を疑ってしまう。これらも例の年賀状と同じではないだろうか。

真心というものは、心と心の触れ合いである。「心と心が触れ合えば、おれとおまえは……」のC・Mではないが、インスタントコーヒーにさえも真心を込めることができるのである。これを飲んだ人が後日それと同じものを作って飲んでみて、「果たしてこんな味だったかしら?」と考え、次に「あの時の味は一生忘れないだろう」と思うに違いない。

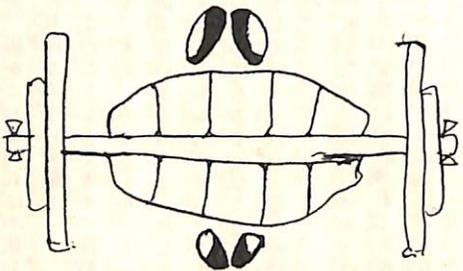
中世のバロック音楽にも、真心というものが込められているのではないだろうか。もともとあれに使われるチェンバロは、聞いていてまるで朝もやの湖畔の白樺林を一人で歩いているような気がするが、そういう気持ちになるのは音色のせいばかりではあるまい。それは、手製の楽器を作る職人の真剣な心におそらく真心が込められていて、作曲家の技法によつて導き出されてくるということにもよるだろう。企業化されて大量生産される現代のピアノとは、計っても計り切れない差異がここには生じている。

要するに真心とは、殆どどの人が潜在的には持っているが、いざそれを表現するとなるとなかなか困難なものであるといえるだろう。また都会のようにかわききついているところでは、その機会もめつたになくなってしまつて

いるのだろう。そしてそういう所では、真心という潤いもたちまち蒸発してしまふに違いない。だから真心は形の無い、それでいてあらゆる人が持つことのできる、大切な大切な宝物なのである。

それが真心というものなのである。

三年A組 高橋 正純



遊んでばかりいると、その時は楽しいけれど、あとで何ともいえない不安とあせりのようなものがどっとおしよせてくるような思いがする。ただなんとなく過ごしてしまふ日の短さ、しっかりと送った日の一日の長さ、同じ時間とも思われぬ。無意味であったような日であったと思うのは、やはり、これではいけない、充実した日を送りたいという気持ちがあるからだ。失敗のあと、よく後悔して反省する。反省すればいいっていうわけじゃない。後悔して、もうあととはただいつもと同じに暮らしていつてしまふ毎日のような気がする。もっと、びしっとした、満足感のある毎日にしていきたいものだと思う。

生活を見つめて

一年 H・M

私が一日に一度は必ず考えこんでしまうこと。それはゴミのことなんです。ゴミがよくもまあ落ちているということなんです。

「そんな単純なことでそんなに考えこむなんて、何と暇なんだろう。気になるんなら自分で拾えばいい。」なんて言わないで下さい。私だって初めのうちは拾っていました。だって気になるんですもの。そのうちに気にならなくなっちゃありません。ただ、あきらめただけなんです。道を歩いていけば野菜のくずや紙くず。電車に乗っていれば新聞紙。学校にすればビン・紙・ガム。こんなにたくさん人のゴミが散在しているんですもの、私一人だけじゃ一日かかっても拾えやしないんです。

ところで、このゴミはどうして落ちていているんでしょう。空から降ってきたのでしょうか。皆さんは、不思議に思ったことはありませんか。たいていの人は不思議なんて思わないでしょう。わかりきったことだからです。つまり、ゴミは人によって捨てられているのです。だから皆さんにもっと考えてほしいんです。道にガムを捨てたり、包装紙を捨てたりする一方で、誰かがそれを拾わなきゃならないことを。わざわざ机をこわしてそのままにしておけば、誰かが修理しなければならぬか、ゴミとして捨てなければならぬか、とを。ガムを踏んでしまった人がどんな迷惑

を受けたかを。机がこわされれば不足した分を購入しなければならぬ無駄を。

みなさん、このことをよく考えて行動してほしいのです。また、みなさんが一人一人ゴミを路上に捨てないうえ拾うようになれば、どんなにゴミがへるかしれません。でも、とにかく他人の迷惑になるようなことにしないことです。そして、ゴミはゴミ箱への精神で行って下さい。

これが私の考えこむことなんです。いつも心の中で願っていることなんです。ああ……：……ゴミというものはこんなにも気になるものなのです。

運命の中で

2E 古賀 睦子

人は誰でも死んでしまうのに覚悟をしない。覚悟をしないから、自覚しないから短くて少ない時間を無駄にする。自分がまるで永久に生き続け、時間が余って仕方がないかのよう。実に恐ろしいことだと思う。実に情けな

いことだと思ふ。

この世の中に生を受けたその瞬間に人は全ての運命をも授かる。ある日ある時、事故死するの、自殺するの、病氣一つせぜ生きられるだけ生き、つまり老衰で死ぬのも全て、運命と称する魔物のいたずらなのである。しかし残念ながら私たちはその魔物から運命の全貌を知らされはしない。だからこそ覚悟をしなければいけないのだ。時間を時間として見究めなければならぬのである。

誰でも死ぬのはこわいと思っているのに違いない。そして死に直面した時、本能的にと言ってもよいほど、まだ死にたくないと思うのだろう。それは覚悟がないと同時に、運命によって与えられた自分の持ち時間を無駄使いしていたからだ。その事にこれもまた本能的に気がついたからだ。しかし、実際問題これは遅すぎたのではないだろうか。自分に与えられた時間内にそれに気づかなければいかなかったのだ。

「時は金なり」とか、「人生は一度きり」とかよく世間で言われる。良い言葉である。しかし私はここにもう一つ言葉を付け加えたい。それは、

「時間は決っていて、人は死ぬ」というこ

とである。このことを考えれば受験勉強にあぐさくしている人間も、どこかのたまり場何とはなしにタバコをふかしている人間も、死に対する覚悟をし、時間を貴重なものとして見直してくれるのではないだろうか。

ああいけない、私はここで時間の大切さを説きたかったのではないのであった。それはこの次だった。私が言いたいのは満足して死ぬべきだということである。その為には時間に対する後悔の念を持たない事である。死ぬ時に後悔する事程、恥ずかしい事はないのであるまいか。そしてまた後悔したかしないかによって初めてその人間の価値を判定できるのではないだろうか。

人間恐怖症

ある日突然、人間恐怖症の発作に襲われた。それは、大切な一言が言えなかったために友人を傷つけてしまったことから始まった。その言葉は、たった一言なのに、とんでもない

にくくて、そしてとっても大切だった。その時出なかったその一言を、後でいくら繰返しても、それは、無駄なことだった。

「ごめんさない。」そのたった六文字の言葉なのに……。

るいは憎しみとかによって、言葉は、反対の意味にも取れるものだと思った。

友情でもろいものだった。あるいは、友情だと錯覚していただけなのかもしれない。友人が急に、友人でなく他人より他人になってしまった。言葉も意志も通じなくなると、反省も後悔も、むなしく空中に消えてしまった。

それらの過程は、一気に、友人が、昔私の言っていたことを悪くっていると知ってから、理屈なしに恐れを感じ始めていた。

自分も含めて。その友人が、昔、私の言っていたことを思い出して、私に裏切られたと思っているということを知ったからだ。そんなつもりじゃなかったこと、あいまいな表れたところなど、みんな悪く見えてしまったんだと思う。その友人が、悪いなんて、そんなことを言っているんじゃない。そのように誤解されたから、傷ついたとか、私こそ裏切られたとか、そんなふうにしていいやしない。ただ、言葉の限界というものを感じた。そして、それを補う友情とか、愛情とか、あ

で表われたのだったけれど。

この窮屈な日本の中でこんなに多くの人が、あくせくと生きている。

男も、女も、ほとんど似たような格好をして、しかも似たような顔の造作で。何のために生きているのか分っているのか。流行を追うわりには、遊ぶわりには生活様式が低い。そうして、貧富の相違はあれ、皆似たように短い生涯を子孫以外には後世にも残すことなく、燃えつくしていくのだ。勿論、一般的に見たことであるが。衣食住に明け暮れて、そして一人前のおとなになりきって、子孫を残していくだけの人間では、原始社会の時と本質的には何ら変わらない、一種の動物ではないだろうに。

人間として与えられた義務というものがあ。それを果たして生活する態度がない以上、ひとりの人間としての存在を認めてよいものかどうか。ましてや人間は動物では持たない



事のためにその資金を配分しています。このWWFから、わが国の国際保護鳥であるトキに対して、その援助金が送られてきてトキを人工的に飼育、繁殖するための施設が設けられています。

ところがわが国からは、WWFに対して少しも協力をしていませんでした。それで、関係者が集まって、一九六八年九月「野生生物保護基金日本委員会」(WWFJ.C.)を結成して、寄付金を募集し、その内の半分をスイスのWWF本部に送り世界各国の自然保護のために使ってもらい、半分は国内の動物保護のために使ってもらうことになりました。

F運動に参加していただくようお願いいたします。

ものを与えられているのだから、単に動物として生きることは、一種の罪悪になる。責任を負って生活するのにもなまやさしいものではない。しかし、どのような環境においても、すべての人々は義務が与えられているはずである。こうした考えからも、私はこれまでに、生活態度の中に苦しんできたのだと思う。

現代社会に至る歴史の中でこうした態度を、この程度考えるだけでなく、一生涯貫徹できた人々を、私は知るかぎり崇拜する。特に、女性として素晴らしい生涯を終えた人々にはなおさらいえることにちがいない。人間としてのみならず、女性としても生きなければならぬのだから。この点男の人には理解できないだろう。多くの男の人は、根本的には女の人を外観で値ぶみすることしか知らないのだから。そうしてエンジェルのような素晴らしい愛を悪魔のごとき世界へと覆す結果になる。これが複雑な現代社会の「おもしろさ」である。或いは原因が女性にあることもある。人間ゆえ、すべての人々がその両面をちゃんどそなえているのだから恐ろしい。現に、自分をいつわることこそ独得の喜びを感じる女の人は多い。そして死ぬまでやめようとしていない。

募金協力は金額の多少にかかわらず歓迎いたしますが、特に一時に千円以上ご寄付の方にはバンダのバッジを贈呈します。

尚本会は次のように会員制度を設けて、本会の目的の推進を願っています。会費は本会の運営、特に宣伝、募金のための印刷物、バッジ等の製作等に使われ、会員には年数回発行するニュースレターの配布、総会への参加や募金のお手伝い等を願うこともあります。松高のみなさん、ふるってご参加下さい！

正会員 会費年額千円
賛助会員 会費年額一万円
会員にはバンダのバッジを贈呈します。
(寄付金、会費等は直接本会事務局にお送り下さい)

くわしいことは左記へ
〒113 東京都文京区弥生二丁目五番一〇号
世界野生生物基金日本委員会
電話(八二三)二八七一

また、WWFJ.Cとは関係なく、「動物愛好会」というのがあります。これは、東京動物園協会が運営している動物愛好者の集りの会です。会費は年千三百円で、会員には次のような特典があります。

もっとも、一体何が、どういった状態がほんとうの幸福であるかは、わからない。人々は同種の人間を求めて最後まで独りである。気がついてみたら男の子に、或いは女の子に、生まれてきた。そして光の中の夢に憧憬れ、小さな自分だけの影に閉ざされて、結局最後までさびしく独自の環境に耐えて、その生涯を終えてしまう。

2C 伊藤 美歌

世界野生生物基金日本委員会
について(WWFJ.C.)

一年 E・Y

世界中の各地で、美しい自然がこわされたり、動物や植物などがひどく荒らされたりしています。このような自然破壊を防ぐために必要な資金を集めている「世界野生生物基金」(WWF)は、一九六一年スイスで発足しました。この会は、世界各国から寄付金を集めて世界で一番必要だと思われる自然保護の仕

- (1) 毎月の例会及びその他行事への参加
- (2) 月刊「どうぶつと動物園」の配布
- (3) 動物及び動物園に関する資料の利用

くわしくは左記へどうぞ
東京動物園協会・動物愛好会
東京都台東区上野公園九番八三号
上野動物園内
電話(八二八)五一七一(代)内線一五

体育祭という名の運動会の声

よく晴れた日だった。土ぼこりにまみれ、校庭中を走り、つましやかなわれらル・クルの一年女子は、実によく働いた。
なぜか松高の運動会いや、体育祭は、応援が良い。特に女子のユニホームが良かった。
赤組……真紅のつりスカート
白組……スカート
青組……エプロンドレス

それにそれぞれ白の運動着。それでは、応援団の女子にユニホームについてひとこと。

LE COEUR

赤「これ裏地なのだ。」

「おかあさんに作ってもらった。」

白「借りるのに苦労した。」

「なんとって清純な白ノ！」

青「赤、裏地でやんの。われらは木綿だぞ。」

「エプロンドレスってかわいいでしょ。」

次に応援団でない人たちの意見は、

一女赤「男子では白、女子では青ネ。」

一女青「白に決まってるう。」シヨッテル

い。

一男赤「男は白、女は青。」

一男白「白が一番いい。」

一女赤「断然青ノ！」ナンカアルナ

一女青「白の女子がかわいい。」

一女白「白ノ白ノ白ノ！」

一男赤「赤組の女子は実にいい。」

一男青「男子赤、女子白が整っています。」

一男白「男子では白、女子は赤である。」

三女青「女子青、男子白がバッチリ。」

(影：かなり非常に○○的な意見ノ！)

二年まで聞いて、三年を聞かなかつたのは、

申しわけありませんでした。三年の男子とい

うのは、かよわきまたおとなしい私たちには、

恐怖を感じさせたのであります。

次に競技中の様子

一女赤「ハードルで「鎌田さあん。」と叫ぶ。」

問「今負けてますがこれからどうでしょう。」

一女青「さあ、知らないね。」

一女青「勝つんじゃない？」

三男青「わからないよ。」

問「今勝ってますが、これからは？」

一女赤「勝つんじゃないかしら。」

三女赤「勝つに決まってるわよ。」

問「そこにおいてどうですか？」

一女赤「ここで見てるのおもしろい。」

父母「よくやってますね。」

同「みんな元気でいいですね、がんばって。」

問「売れますか？」(10時25分)

販売者「まだポツポツ。オイ買わないか。」

私たちは次に選手にインタビュ―してみました。

まずは高飛び一位の人に、

問「コンディションは？」

答「きのう疲れてよくない。」

千五百メートルの人に、

問「応援聞こえますか？」

答「苦しいけどまわりの声は聞こえます。」

でも見てるひまはない。」

同じ質問をスエーデンリレーの人に、

答「やってるんじゃないの。」

次に今年初めての長谷川先生に感想を、

答「応援が熱心ですね。リレーが多すぎる

んじゃないかしら。」

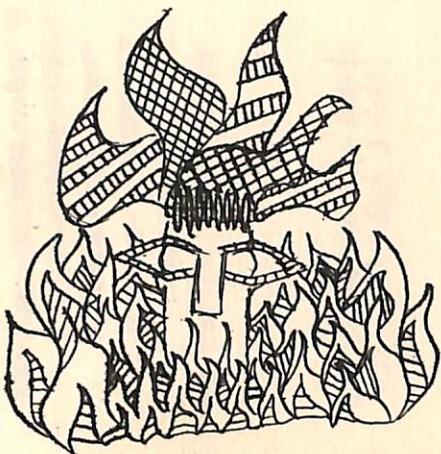
インタビュ―というのにはむずかしいもので

す。初めははるかしくて何も言えませんでした。

けれども、知らない多勢の人の意見を聞くのは楽しいことでした。結果は赤、次が白。

みんなほこりだらけになって疲れて、それ

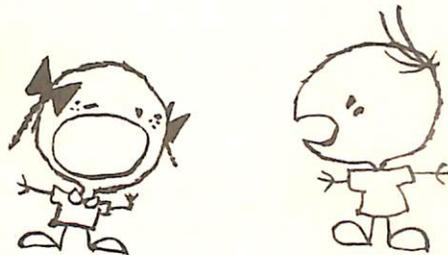
でも楽しい運動会いや体育祭でした。



こたつに
足をつっこんで
こうして
頭を のせて
おぬしのこと
考えているのですよ
ぼんやりと

風が

時々やってきて
“いいかげんになさい”
なんて
わめくんだけどさあ
やっぱり それでも
考えているのですよ
ぼんやりと



Zen

このごろ
変に ドッキンドッキン
するのです

ばかだなあ あたし
ひとりで
—ぞくにいう—Hなこと
考えて
変に ドッキンドッキン
するのです

ほそーい 糸につかまって
一人で
旅に であのような

そんな
不思議な夢でした

甘いかほりを たよりに
わたしは
歩きつづけ
やっと
恋という森に
たどりついたのです

あなたはちょうの葉っぱ
わたしの
かたに
ひらりとおちて
ちっちゃな口づけ
くれました

そんな
不思議な夢でした



Zen

松
高
365
日

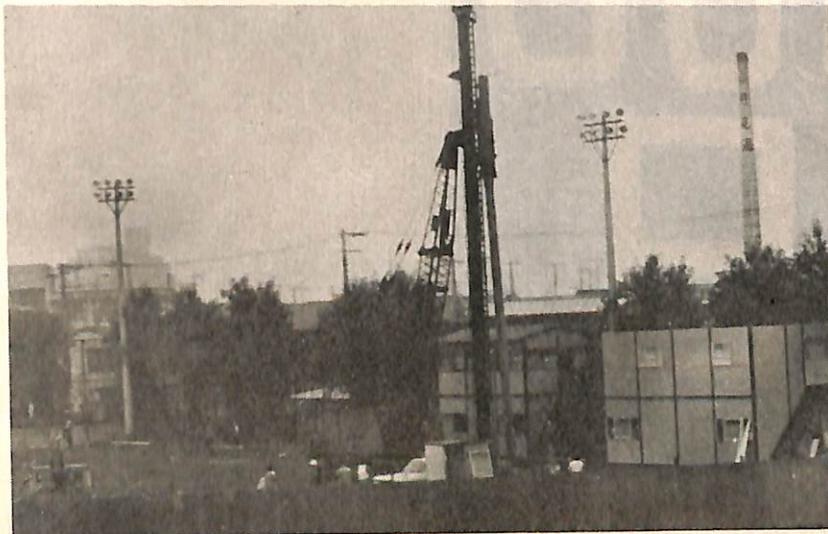
- 四月
 - 八日 始業式
 - 九日 入学式
 - 十日 対面式
 - 十四日 オリエンテーション
 - ～ クラブ紹介
 - 二十日 一年合宿ホームルーム(千倉)
 - 二十六日 三年遠足(大島)
 - 二十七日 一年遠足(鎌北湖)
 - 二十八日 一年遠足(鎌北湖)
- 五月
 - 一日 適性検査
 - 十二日 生徒総会
 - 十六日 体育祭
 - 二十八日 中間試験
- 六月
 - 一日 生徒総会
 - 三十日 生徒総会
- 七月
 - 八日 期末試験

四月〇日
 アーア、春だなあ。今年も、桜の花ぶぶきと共に松高の三六五日が始まった。何もかも物珍しそうな顔をして登校してくる一年生。対面式の記事をまとめ忘れたのは、我輩一生のフカクノ(編集委員日記より)

今年度もこうして皆様に三六五日の記事を差し上げられる喜びをひしと感じ、これも、皆様のおかげと、厚く感謝いたす次第であります。前置きANDジョークAND付録はこれくらいにして、本題にはいろう。

まず一言に今年度の松高をふりかえるなら、雑事の多い年であったといえるだろう。創立二十周年、校舎改築、制服自由化、etc. もう少し細いところでは、マラソン大会中止から、加藤先生の結婚まで……。とにかく、話題の豊富な年であった。

しかし、数年来叫び続けられている「松高ムード」からくる問題もかなり影を落しているのではないだろうか。なぜなら、前に上げ



- 十二月
 - 二十日 終業式
 - 二十一日 水泳教室(千倉)
- 九月
 - 二十四日 始業式
 - 一日 球技大会
- 十月
 - 一日 服装自由化になる
 - 二日 文化祭
 - ～ 中間試験
 - 二十五日 中間試験
 - 二十八日 二年生修学旅行(関西・四国)
 - 五日 一年遠足(高尾山)
 - 二十九日 講演会

た話題の行事等についても、生徒一人一人にしみわたっていたわけではないのだから……。たとえば校舎について、現に校庭の半分がトタン板の壁の向こうにあって工事が進行しているながら、そのことについて一部運動部員以外の話題にものぼらなくなっている。これは、かなり真剣に話し合われたはずの自由化問題(制服)の時ですら、まっ青な頭をのぞかせていた。そのことの良し悪しは別として我々は現に、東京都立松原高等学校の生徒である。我々の生活の大半は学校にある。つまり松高の三六五日は我々の足跡であり、なつかしいアルバムの一ページのはずである。だから、もう一度見直してみる必要があるのではないだろうか。

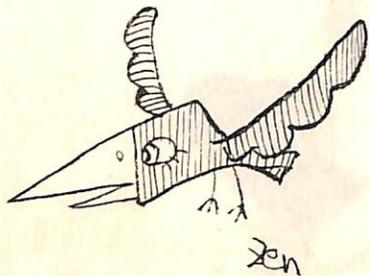
めんどくさい筆者(ねむい目をこすりながらがんばっている)自身でさえコンガラガルような理屈が出てしまったが、それはむしろどうでもいい。

学校行事など、まず毎年それほどの変化はない。しかし、それを動かす生徒には個性があり、学年のカラーがある。だから同じ「松高三六五日」もほんとうは毎年違うはずである。

昭和四十六年十月一日は、その時の在校生のものであり、諸先輩方の足跡であると私は思う。この日は松高史上にも残る事実が実現した日だ。だから大切にしたい。これはこの日ばかりでなく全ての「松高三六五日の一」に言えるのである。

大変未熟ではあるが、以上のようなことを考えて、今年も「松高三六五日」に取り組んだつもりである。

自分たちで作りに上げた日々、足跡を反省し何かを知る手がかりになれば幸いである。



おはなし

| | | | | | | | | | | | |
|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 十二月 | 十一月 | 十月 | 九月 | 八月 | 七月 | 六月 | 五月 | 四月 | 三月 | 二月 | 一月 |
| 十一日 | 一日 |
| ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ |
| 期末試験 | 期末試験 | 卒業式 |
| 二十五日 |
| ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ |
| スキー教室(山田温泉) |
| 三十日 |
| ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ |
| スキー教室(山田温泉) |
| 三十日 |
| ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ | ~ |
| スキー教室(山田温泉) |



一九七一年十一月二十五日

純一の友人である、中川はなぜか、だまりこくつている。それも朝からずつと。

それに視線はやに妙で、ずつと教壇の上の花から、びくりとも動かない。今は二時間目の漢文であり、皆、思い思いに、過しているように、中川以外は、いつもと変わらない木曜日の授業風景なのである。

都立松原高校

純一がこの学校の門をくぐってから、はや二年半が、たとうとしている。早いものである。しかし、その変貌ぶりは、目を見はる思いである。

入学テストを好成績で合格!

彼のクラスであった一年F組では、成績は常にトップクラス。だが俗にいわれるガリ勉タイプではなく、友人関係も非常によく、クラスでは、授業中でも割とワーワーやっているほうであった。

それが二年になり、クラス変えがあり、彼は、C組になった。中川とはこの時始めて知り合ったのである。一年は、F組だけ他のクラスと教室が離れていたため、行き来が少なう、孤立していたので、彼にとっては、始め

て、顔を合わせた者が、少なくなかった。

このクラスは、元一年D組、一年B組が多く、最初からザワザワ落ちつかなかつた。この時彼の心に、一種の喜びが走つたのを覚えていた。

そして七ヶ月―彼の成績は、落ちるところまで落ち、クラスの席次は、四十八人中四十一番。一年の時は、キッサ店という、不良のたかり場、とすぐに考えていた彼も、今では、キッサ店でたばこは吸う、酒は飲む、マージャンはやる、パチンコはやる。

とにかく、こここの彼の生活は、「乱れている。」の一言で、言い表わされる毎日であった。

ところが、今日に限って、朝から勉強意欲が、ワイてきたのである。昨日、面接があり彼の成績の落ち方を、たたかれ、「なぜこんなに下がったの」という素朴な質問に、頭をかかえていたからであった。

事実、この理由は、彼にもわからず、いつのまにかこうなつたときか、言い様が、ないのである。

そんなわけで、今日からまた頑張るつもりで八時三十分の始業のベルを聞きながら、教科書に目を走らせた。

「中川のやつなにを考えているのだろう。」あれから、六時間目まで、結局、何もしゃべらないで、ただイスに腰かけてジツとしているだけであった。クラスのみならず、不審に思い、隣にすわっている大川さんは遂にたまりかねて、口火を切つたが、返つて来ることは、なかった。

「ほんと、あいつどうしたっていうんだろ。」純一は、階段を登り切り、中川を捜した。彼は一番奥の左側に、座っていた。

「よお、話つてなんない。」
「よお、話つてなんない。」
緊張感をほぐすため彼はいつでも、最初に「よお!」と呼びかけるのであったが、そのことばさえも、シラジラしく感ずるほどの、電気のような刺激が、体をかすめた。

「まあ、座つてくれ。」
彼は、実に冷静に言った。

純一は、ウエイトレスに、コーヒーとケーキとハイライトを注文するなり、

「いったい、どうしたっていうんだい。」

今日のおまえは、絶対に変だぞ、話したい事があるなら、なんでも聞いてやるから。」

一瞬、小さな緊張が走つたが、中川はすぐに話し始めた。

「今日のオレは、確かに変だ、だが頭は、しっかりとっているつもりだ。」

とにかく、オレの話最後まで聞いてくれ。途中絶対に口をはさまないでくれ。これだけは、絶対に約束してほしい。」

「わかつた、口は、はさまないよ。」

中川は、注文のレモンティを、口に注ぐと、ウエイトレスが、コーヒーとケーキとハイライトを持って来た。純一は、ポケットからシヤンプルのマッチを取り出し、ハイライトに火をつけた。甘い香りと、ほろ苦い味が、まるで互いに混り合つたような、なんとも言えない、うまさ、口の中にパーと広がるのを覚えた。

ところが、この時から、中川の様子不審なのに気がつき始めた。中川は、彼の斜め後ろの席であり、いつもならもうとつくに、話しかけて来る頃であるのに、いっこうに、声がない。不思議に思つて彼を見ると、なぜかことなく、いつもと違う容顔なのである。

純一は、なんとか話しかけようと、一時間目の授業である英Gの伊田の目を気にしながらケシゴムを落つこととした。うまい具合に中川の席の前にそれは、ころがって、彼はなにげない様子で、彼にケシゴムを取つてくれるようたのんだ。その時であった。

中川は、「今日話があるから、モンタンまで来てくれないか。三時三十分待ってる。」と、一言言うなり、またさつきと同じように、沈黙を始めた。

そして二時間目、あと五分で終わるという、底屈な漢文が、あと五分で終わるといふ、底知れぬ解放感が、体全体に沸きあがり、しかし、中川のしゃべつた一言が、頭から離れなかつた。

三時三十分 JUSTI

純一は、モンタンの階段の手すりに手をかけた。

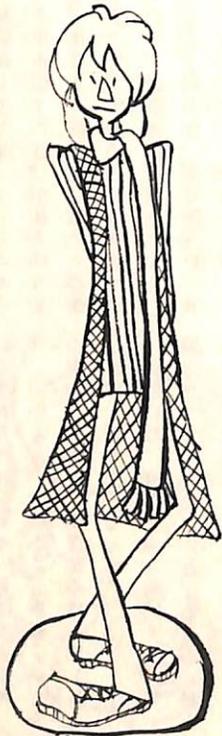
「オレ、バリストやろうと思うんだ。もうたえられないんだ……。」

「え!」純一は、中川の突拍しもないその言葉の意味しているものが、なんであるかわからなかつた。

「え?! なんだって?! バリスト……!」

「そうだ。確かにもうそんな時代は終わった。学園紛争は、もう遠い、このような時代になつた。」

だけど、オレ、今、どうしても、必要のよう思う。我々の、一つの自己表現として、なんて言うのか、ありとあらゆるものが、時代という、大きなほうきみたいなのにぬぐい落とされてしまつて、社会体制の中の自分が、いかに拒否できるかという、一種の



ゲームみたいなものが、ゲームそのものにならな
ってしまつて、拒否という事さえも体制内での、ア
ジテーションでしか、なくなつてしまつて——すべて
がすべてがすべて、流れるままに、自分の考え、ド
ロップアウトするはずが、とんで落ちてしまつて、そ
の地点で考え直す。でもない、とこで、体制内に毒
化され、もうどうしようもない状態まで、我々は、追
いつめられたんだ。

学内闘争から学外闘争に持つていく過程で完全に、挫
折してしまい、大衆から、孤立してしまつては、おし
まいなんだよ——。」

中川は、息もつかぬ速さでしゃべりまくり、大衆から
孤立するばかりじゃないか。」

「オレは、高校に入つてから、演劇に興味を持ち、一
時、凝つたことがあつたんだ。演劇こそ、もつとも
鋭い人間表現さ。センター68/71のテントにも参加
したくらいなんだ。」

「オレは、高校に入つてから、演劇に興味を持ち、一
時、凝つたことがあつたんだ。演劇こそ、もつとも
鋭い人間表現さ。センター68/71のテントにも参加
したくらいなんだ。」

「それが、バリストという訳か？」

「まあそうだ。つまり、バリストということだけで、結
び合うんだ。」

「用意は、全て備つてある。仲間二十人は、ある。そ
れどころか、今まで持つていた狂気の一説を、否定し
たいほど、彼の感情は、震えあがつていた。自分自
身今まで、実現できなかったものとして考えていた
ものが、あつた。目の前に現われようとしているの
だから。」

「オレは、去年の今日、三島の死を、知つた。この
ことを思つた。彼の死は、オレを、狂気による反
乱の序曲の役割をはたしている。狂気とエゴと破
戒と——。」

「オレは、闘争の原点を、ここに持つて来たんだ。そ
して、着実に一步一步、計画を進めて来た。全ては、
そつた。」

「あと、オレを待つてくたうわけか。」

「そうだ。この計画は、オマエが必要なんだ。やつ
つとで思つて押えた。」

「オマエ前から、言つてたじゃないか。狂気に」

「オレは、この私物化された学校で、好きなことを
やるのさ。有りとあらゆるものを拒絶して、個人
としての、存在を成り立たせるのさ。な、オレとい
つしよに闘つてくれるだろ。おい、藤。なんと
か言えよ。」

を、単なる、自己表現の一つにしてしまつた。つ
まり、私物化してしまつて、そこから新しい、何か
を生み出すのさ。学校という公共の施設から、単
なる、遊び場程度のものまで落ちてしまつて、そ
の地点で考え直す。でもない、とこで、体制内に
毒化され、もうどうしようもない状態まで、我
々は、追いつめられたんだ。

それに、最低限、バリストという手しかな
いんだ。」

「しかし、バリストなんてやつたら、よけい
な口をささむなど言つたはずだろ？」

「藤、口をささむなど言つたはずだろ？」

指導者なんてのもないさ、やめたいやつ
は、やめたつていいし、好きな事をやつて
や、いいんだ。とにかく、東京という大都市
の中に、まるで、現状からはみ出した、小
さな都市を創り上げるんだ。

体制には、武器のみで対応する。
殺したつてかまわないさ、もちろん殺される
かもしれない。

人間というものは、どんなことがあつても
殺すことだけはいけないという、絶対的な最
後の、救いみたいなものがあると思ふんだ。

「藤、口をささむなど言つたはずだろ？」



今の時刻は十一時三十分。時間はコクコクともむねがドキドキするのは当然なのである。あと一時間、いや二時間あるのであるが、どうもおちつかない。話はおかわるが、ここまでやっていたいさつを話すことにするでヤンス。しょうせいは恋人もなく、いままでジョボンとしていたのでヤンス。「ああ、みんな恋人がいるのに、なんでしょうせいは恋人がないんだらう。ぢくじょう。この際、顔の方は、二の次で誰でもよいからいい、だれかきてくれ——」ただ今のことばでわかるように、しょうせいはうえていたんでやんす。

「もちろんな女の子」ところがでやんす。しょうせいの友達である、鬼沢馬之助という男が声をかけてきた。「おい高倉。この高倉というのは私の芸名なのでありません。「おい、いい人がいるんだけどな、おまえ、会ってみたいか」というんでやんす。しょうせいは「しゅん、心臓はドキリ、足はガクガク、手はブルブル、なんとナニまでふるえだしたんでやんす。「おい、ほんとうか？」興奮のあまりこのことばが飛びだした。「おう、おれ小指がよ、だれかいなかったらいいんだ。いろいろ条件をおわせると、なんとなしにおまえが、びったりなんだ。」しょうせいはそんなことばが耳に入るよゆうなかなかなら、ただ「たのむよ。」のことばしか、でなかったらでやんした。そんなわけです、コクコクとその人という時間がせまっていたのである。ポーン、やっと待ちに待った一時のカネがなった。しょうせいは「時間は早くいってまわっているほうがいいかなあ、いや後から行ってニヒルススタイルで行こうかな」などと心の中でまよったがやはり遅れていくのは悪いと思ひ時間びたりならいいと、出かけたのである。場所は紀ノ国屋のトナリのトナリのトナリのトナリと離れて、た喫茶店なのです。新宿で鬼沢馬之助と待ちあわせ、その喫茶店へと急いだのでやんした。その場所にたどりつくと、私があわてふためいているようにあのずうずうしい馬之助まで、ふるえだしたのでやんした。私が「おい、早く中へ入って見てこいよ。」という、「おいふざけるなよ、おまえ行けよ」なんていうんでゲス、「バカだなあ、おれが行つて

誰が誰だかわかるわけがないだらう。早く入れよ」とむりやり押しして中に入れたでやんす。馬之助はいいやながら、中に入ってしまったのであった。私はそとで、彼等が出てくるのを待ったのである。一分後、ついに彼らが出てきたんでやんす。「わあ——。」しょうせいは、一しゅんにしてこのキ声を上げ顔を真赤々にして全身が火の玉のように熱くなった。馬之助が連れてきた女の子二人は、水もしたるよゆうな、女の子だったんでやんす。もう私はうれしくてうれしくて、目に涙をうかべました。彼等はだんだんしょうせいに近づいてきました。五m・四m・三m・二m・一m。〇mはオーバーだけどすぐそこに、目の前にいるんでやんす。もうわちきは、体がコチコチになり、もう立っているのも、苦しくなるほどでした。

鬼沢馬之助は口をふるわせながらも紹介しはじめた。「あのーこちらが、高倉さんでこちが、西山さんです。」しょうせいは、あいつが、こんなにおしとやかな表現をしたのは、始めてだったので、心の中でにが笑いをした。「そしてこちらが高倉君です。」と鬼沢馬之助が二人を紹介すると明らかに二人の表情がこぼり、次には夢、破れたりという

顔つきになったのを、私は覚えていたのでヤンス・まずい／＼と考えた鬼沢馬之助は「こんなところじゃ、なんですから、どっか外へいきましよう。」と巧みに二人の美人を外へ連れ出したのでヤンス。おお／＼と判断力のある若者なのであろうか、その点、しょうせいなんか。そんなことを考えながら楽しそうに歩いている三人の後をくつついてったのでした。

しょうせいをかばってくれたのでした。しょうせいはもう、声がつまってしまう、首をたてにふるのがせいっぱいでした。「君たちはどう？」と鬼沢馬之助氏が二人の美女に尋ねると、「エエ、いいわ、いくわよ。」と、もうどうにでもなれ／＼という感じでぶつきらぼうに答えたのでやんす、そしてしょうせいに對してだめおやじならぬだめ学生／＼というような目つきでみつめたのでやんした。さすがのしょうせいもこの目には耐えきれず地面を見ながら歩き鬼沢馬之助に感謝したのでやんした。そして馬之助の行く方向についていったのでした。ところが馬之助は顔を少し赤らめながらこちらへ向ってきて言ったことには、

道を歩く人に聞きにいったのでした。その人はばかにしたような目をしながら教えてくれたのでやんした。しょうせいは、このばかにされたうらみを馬之助にかえそうと思ひました。あ、それこそ彼がかわいそうなので、やめることにしたのでヤンス。「ああ、すつきりした。」ああ、それはそうと鬼沢、遊園地には国鉄線の中央線にのって水道橋でおりるんだよ。」とていねいに教えたのでヤンス。

「ボーリングでもやらないか」鬼沢馬之助がそう言うのと、二人の女性は、「ええ、いいわね」と声をそろえていうのでした。しかししょうせいは、名前こそきいたことにはあるがどんなことをするかわからないのでヤンス。しょうせいは、とうていできるものではないし、また、やったとしても恥をかきただけから正直に「ウン、でももつと他の事やろうよ」と弱々しく答えたのでヤンス。すると高簡さんが「あら、高倉君できないんじゃないの？」と冷たく聞くのでヤンス。しょうせいはどうしてよいかわからず、うつむいていると鬼沢馬之助が「高簡さん、そんなこと言うなよ。それにこんな良い天気なんだからボーリングするよりも、遊園地の方が楽しいかも知れないな。高倉、遊園地ならいいだらう。」とし

しょうせいは、遊園地にはどうやって行くのか。「おい、遊園地にはどうやって行くのか。」なんて聞くんでやんす。しょうせいは、大通りで人がたくさんいるにもかかわらず、大声で笑い始めたのでした。(さもほこらしげに)しかしこの笑いにはましがいと気がついたのは、この十秒後なのです。実はしょうせいもその場所を知らなかったらでやんした。しかし、大声で笑った以上「馬之助に知られるのはまずいと思ひ」ちよつとまわってこれないか、トイレに行きたくなつちやっただ。」とごまかしのことばを言ひ、はじをしるので

出た、思ひ出した。「などと知らじらしくもうそをつくのんでやんす。しょうせいは馬之助の顔がみじめに見えてしょうせいはありません。そう強がりも言つた小生は三十分もたないうちに又、もとの弱気にもどったのでヤンス。というのは新宿から国電のメナニをもよおしたくなつてしまったのでヤンス。オッ、オ、鬼沢、俺ちよつと、ウツイタ、イタ、ア、ア、ア、と体をくの字にして訴えたのでした。「なに、それは困つたなあ、次の信濃町の駅でしてこいよ。ホームの左端にあるからさ。」で、でも高簡さん達にはなんていえないんだよお」

「ウーン困ったな」そんな会話をしている間にも、だんだん放水状態に近くなってきた。薄情にも電車は信濃町のホームにすべり込んでしまったのでした。小生はもう泣きたい気持でヤンスタ。

THE DOOR IS

OPENING、アー、恥を承知でホームに降りよう。そう思っているやいなや「チョット俺さ、トイレに行きたくなっちゃったからさしてくるよ。君達、待っててくれなにか」と鬼沢が高筒さん達にいったのでヤンス。「エッ、トイレ、気分こわすわね」と二人の女性は鬼沢君の事を、しよりのない人ネ、というような目でみつめたのでヤンス。「悪いな、でも生理的現象だもん、オイ、高倉もいこうぜ」「エッ、俺はいいよ、したくないからさ」とカッコづけてしまったのでヤンス。「頼む、つき合ってくれよ」「ウン、じゃあ一緒にいってやるよ」そう小生は答えてしまったのでヤンスタ。アーア、俺はひきょうな男だそれに比べて鬼沢君は、おお／＼なんと友達がいのある奴よ／

鬼沢君にはすまない気持でいっばいだった小生の心も、さっきの事件いらい、二人の女性小生と話し始めてくれたので、少しずつ楽しい気分になったのでヤンス。

ふいくしよん

—F その納得し難い高校生活の実態



京王線下高井戸下車徒歩約8分、電気、水道、ガス完備が、我松高である。誰しもこの学校より千歳の方へときつときつと思つたことでしょう。小・中学校でさえ鉄筋校舎の世の中、前の日大うらめしい、僕らの学校倒れそう……でもやつと新校舎ができるんです。

(ホントによかったですねえ。) 僕ら一年生ひよつこたんは、一生懸命勉学にいそしむのでございます。ある水曜日の僕らのクラス、一時間目は体育です。「死んでもらいます。」の声高く、「メーン／ドォー／コテェー／」声だけよかった僕だけ相手の強さが身に見える。やつと終わって着がえだす。「オレのズボンはおーいズボン。」とH君。「女子

時々、鬼沢君の方を見ると一人で吊り皮を手で握りしめ立っている。そして小生の方を見て、「高倉、良かったな」というやさしい目でみつめてくれるのでした。

おお／＼なんと男らしい男なのであるうか／しょうせいは感謝の気持でいっばいだった。水道橋につくまでは、ところがでやんすよ。鬼沢はあまりにも、しょうせい達が仲がよかつたのをくやんでか、急にさっきの真実をばらしてしまつたんでやんす。しょうせいは顔を真赤にし、もうこれまでだ、と思ひもうしわけないとすなおにあやまろうとした時でやんした。二人の美女の一人西山さんが「あら鬼沢君で男らしくないわね。男がいつべんきめたら、それをやり通すのが男じゃないの」といっただんでやんす。しょうせいはただぼう然としていたのである。すると高筒さんは、「そうよそうよ、鬼沢君あなたナニがついてんの。」と女ながらすごい暴言をはいた。しょうせいはあまりにも鬼沢がみじめになり、「二人とも、全部ぼくが鬼沢にたのんだことなんだから、悪いのはみんなぼくなんだ。どうも申しわけありませんでした。」というところ、いや高倉君が悪いんじゃないわ。」とかばわれどおし、まったく次のことばにまよって

の方どうぞ。「そりゃあない／＼絶対はこのクラスにはそんな人いませんよ、ね？」オーイ。入れてくれよ。「B君。「着がえるまで待て。」と冷たいS君、いきりたつたB君、ドアを「えい」とばかりにけとばした。「おい、ばか、えーん。」泣き出したのではありませんでているのです。おおかわいそうなC君、これで学校来れなくなるね、いい傾向です。平和の日々が待っている。続いているのが英選の時間「アンブレラ先生」で終わり。数学の時間でございます。大きな体を使つての三角函数の説明、「サイン、コサイン、タンゼント。たして、ひいて、二乗して……」楽しい、楽しい授業に久しくなかつたクラスの爆笑——そうです。かの宗内先生の授業だったのです。四時間目はまったくピース／ンインとした時間は昼休み。「ハラヘッタ、なんか食べさせてくれ。」とU君がさわいでいる。「へーんだ何もあげないよ。」と冷たくつけはなす僕。さあ、委員会ですね。おや、誰ですさぼっているのは、ひまな連中はダベリング。「古文、赤点、やばいな。」「おれリーダーだぞ。」「おれはないね。低空飛行だけだ」「激突に注意しろよ。」と忠告あり。

女の子の一人は映画の話。他はおんもでバレ

しまった。しょうせいは「おい鬼沢、気にすんなよ。」というところ「ありがとう高倉／＼」もう鬼沢の目は涙ぐんでしまったのでやんす。二人の美女は「もう帰る。」というところばを残して帰つたのでやんすよ。結局女の子とおつきあいしようなんていう甘い期待はぶつこわれたでやんす。ではサヨナラ。



ーボール。あれ？誰かF組の日記を書いている。(F組四十七人一族の日記のはず、しかし悪のり十数人程度が高校生の××を暴路しているともつばらの評判。)その後H・Rの時間本日のテーマは？静かなF組は時々賛成の拍手の音がする。(拳手の時代は終わつた？)あとはシーン、草木も眠るウシミッドキか。それに関係ないかのように話しをしている人もチラホラというかほとんど。やつと後ろへ逃げてきたT君、U君とY君はなにやらヤバイ話かな。C君、N君、M君は、フォークの話、「じゃ、賛成の人、拍手して。」議長氏の声に、無視をこいて僕は黙々と書き続ける。(注—これは事実F組であつたことではありません。僕がつくつたフィクションです)ことを御了承願います。



日が落ちかかる。光なすデッキの上には夢
多き男女の群れ、歌声が川を渡ってゆく。動
かない人々の前を一つ、また一つと黒い集団
が横切つてゆく。空はなお暗さを増し、人家
の灯だけが闇に動いている。

この空の下にどれほどの人々がいるのか。
おのが身の無力さを感じて、私はふと口元に
手をやった。東京の雑踏からのがれて来て人恋
しさにうつろい歩く。闇に友を求め寂しさに
一人笑いする。この矛盾を何としよう。闇が
私を誘う。金のため生き、一時の幸せを追い
求め、何事もなく消えてゆく、それが人生か。
雑事に追いまわされこせこせと生きるこれが
人間の宿命。食べて寝て習慣通り学校へ行っ
て平穩無事に暮してゆく。これでも生きてい
ると言えるのだろうか。片寄った感情の押し
寄せる中で、人間的感情など味わえるのだら
うか。表面だけの自分に気がついてまわりに
助けを求める。だが、あたりは仮面をかぶっ
た人々ばかりだ。仕事仕事と逃げまわり、は

ずさぬ心のベールに塵が降り積もり、偽りと
いう仮面を形成する。飾らぬ心はどこにある
のだろう。この曲つた空も死にあっては一た
まりもない。打ち寄せる死の恐怖のため、人
はあくせく働いているのだ。おおいなる母の
元へ吸い込まれてゆこうか。一時の無の状態
の後の新しい人生、虫でも魚でもいい、この
悪習からのがれたい。海はあくまで黒く口を
あけて私を待っている。闇はいよいよ怪しく
光る。波と風が子守り歌を歌いだした。ほん
の瞬のがまんで母の元に行かれるのだ。波、
風、闇、世界がまわっている。

その時、一筋の白煙が上がる。港は目の前
だ。人の息づかいさえ聞こえる。悪夢から離
れよう、道はまだ続くのかもしれない。友人
の呼び声にわたしはデッキを離れた。



校長先生のおこしとば

とろてん人生

学校長 鈴木 雄四郎

清滝の水くみよせてとろてん 芭蕉

透明な感じがいかにも涼しげであり、夏の風物として広く愛されたものである。特に印象的なのは、あの突き出しであろう。四角の水鉄砲のような細長い木筒に、長方形のとろてんが入られ、長柄の棒で突かれると、一方の口から出てくる白糸の感じは、子供心にも面白く感じられたものである。

だがしかし……礼讀の中にも、ふと一種のためらいが私の心をよぎった。とろてん人生について。結論的にいうと、その否定であった。次つぎと器に押し出され、酸味、甘味

の調味料をかけられて、賞味されつつも人の腹中におさまってその生涯を終る。そのあまりにも受動的な姿がはかない。

諸君は今、高等学校に学んでいる。何のために、何の目的で、と問いかけられた時、自信をもって答えられる人は、いか程いるであろうか。人が行くから私も行く。たしかに、都の高校進学率は九七%にも達している。だが、ここで高等学校で学ぶ意義を、自分の心でもう一度考えてもらいたい。君たちの人生は、自分自身の自覚に基づいた人生設計の上に築かれて行くのだ、と言うことを。君たちの周囲には、はなやかなものやレジャーに満ち満ちている。生活のうるおいとしては申し分のない位に恵まれている。しかし、そのために君たちの生活がむしばまれてはなるまい。君たちの現在における、そして将来における大切な、大切な第一義の道は、何なのであろうか。

現代文明社会は、欲望を抑圧することに価値を求める文化から、欲望を率直に充足することに意義を見い出す遊びの文化へと転じつつあるとは言え、美しい遊びの世界の中にも、力強く生き抜く粘り強い精神は、より一層、大切にいたしたい。

ほのぼの



さむいなあ

K・S

ブドウシユ色のドレスを着て
髪を風にそよがせて歩けば
もう一つの世界が広がっている
ネオンの光もあざやかに
つめたい空気の
風冬のおいがしてくる
北風がセーターのすき間を
通りすぎるたびに
はだのちぢまる思いがして
家にいそぐ足が速くなる
いちょうの葉が
カサッカサッと落ちるのが
まるで風景画のように
暗やみに映る
さむいなあ
と階段をかけのぼる

回りを見ると今までいた人々がいらない
広大な平原に私一人が涙ぐみ立っている
全てのものが生まれ代ろうとして
自然界からいつの間にか消えうせた
回り中空白 空白
私の体の中から出てくるものは
涙と怒りと驚き
それからは何物も創造されない
ただのカスだけ
広大な平原に抜け殻となった私一人
涙はかれ果て
怒りはおさまり
驚きは神秘的な世界に私を連れ去った
今の私はどこかさっきりと違う
すでに涙を失い怒りを忘れていたのだから
そして

今のは何かの苦しみを覚えた
何かのゆとりを覚えた
自然界の矛盾に反発しながら
大きな何かを

理子

行く人

ぼくの人生はどこへ行く
あなたを追ってどこへ行く
ぼくは小さな人間だから
ひとりきりでは生きていけない
秋の空の青がさみしく光る
あなたの人生はどこへ行く
希望を追ってどこへ行く
あなたは強い人間だから
他人をふりきって生きていく
秋の夕暮れが真赤に炎える

ぼくはそんなあなたが好きになる
あなたは一人で歩んでいく
そんなとき木の葉が散るのです

片山 教雄

恐ろしいさびしさに 身を震わせて
 いちもくさんに 家路についた
 疲れ果てた体が
 わたしの部屋にたどりついて
 ドアを閉めたとき
 恐ろしいさびしさと 悲しさが
 せきをきって
 わたしは泣いてしまった
 声に出して泣いてしまった
 夢中でドアにすがりついて
 泣いてしまった
 わたしは鏡に夢中でキスをしていた
 夢中で……気がすむまでキスをしていた
 そうして ほっとした……
 この複雑で不純を窮めた灰色の頭脳も
 自らきずきあげた
 孤独感に耐えられなかった
 それでも私は そのことだけには
 純粹でしかいられないのだ
 わたしはみじめな人間だ

わたしはあなたが怖い
 ひとかけの権利もないのに
 純粹にあなたを愛してしまつたわたしは
 さげすむあなたの目を見るのがこわい
 ほんとうはお友達になりたかつたのに
 一切 親しくなれなかつた
 いつまでもその目で
 わたしを見るのだから
 わたしは悲しく恐ろしい
 わたしを理解して下さらなければ
 それでもいい
 それでも わたしは少なくとも
 あなたの前では
 あなたを思い出すときは
 純粹な女性でしかいられないのです
 死んでも 与えられない
 あなたの笑顔がほしいままに

わたしのこのからだには
 あの人たちの血が流れている
 生まれたときから
 このわたしの 恐ろしい生涯から
 逃げ出せないのだ
 死ななければ
 このわたしの 醜い血潮が
 いつまでも いつまでも
 可愛いままで存在して……
 ああ しかしわたしは あの人間が
 とても愛せないのだ
 ほんとにわたしは……
 一生誰の愛情も
 求める資格がないのです

2 C M · I



Spitz

特 集

花がらのカーテンと
花がらのベットと
花がらの毛布に
つつまれて

花がらのわたしは
もうねむって
しまったようです

そんなわたしを
半分開いた
窓によりかかって
風にふかれて
みているあなた

口笛をやめて

花がらのカーテンと
花がらのベットと
花がらのあなたに
つつまれて

花がらのわたしは
もうねむって
しまったようです



3

艺人的情
双喜临门

とざいと — ガリ

冬冷の候 皆様の御健勝の事と存じます
さて今回は 皆様の最〇の感心事 我松高の女教師の方へ
ついでの研究レポートを公表する運びになりました。

④の1 おしゅうじの先生

課題 「もし おしゅうじの先生が おしゅうじか でさなかつたら」

- 方法
- 先生のびょう調査
 - 先生のBWH
 - 先生のお心

結論 先生はミルワールに入社
先生はMJ0E知らない(無経歴)
上から 86 01 86 (先生自身の言ですのであからず、文句のある人
は先生のと=3ハ行ってください。

考察 先生は早くお嫁さんになっちゃってください。

はじめに

何故この方へは特集が組まれたのかと申しますと

別にたいした理由はないのです。

ただ 保健の先生を際いた 8名の おたご先生方は
「めだちん」生徒の「ちゅーん」を おびているの
おかし ちゅーん いじりた いたのです。

エい あんけいと のヒコゴ 「はじめに ちゅーん」のおが
たつたのには ——— PP ました。

下段の 番か じりつ ちゅーん

男の先生にも あつたおびは ———。

たつた 「ちゅーんは男先生」 いう 特集を 組む予定？

お
おしゅうじ。

—
年

単純なので ちゅーんと お世辞をいうと
すぐえこひいきをする。

自分の年もかえりみず、はでなカッコを
しすぎる。やることも歳のせい、かな
りのろい

授業中 愛敬をふりまわしすぎ！
お天気屋。

口でいえばいいのに黒板にかいたりして、
時間がかかってしょうがない。

やたら親切すぎて、おこらなきやいと
おもっている。

何をいいたいのかわからない。
生徒に対しての理想がひくすぎる。だから、
なんでもこれでいいのだといういい
かたをする。

なんでも勉強と結びつけたがる。

ハデな格こうをするのは、目ざわりだが
個人の自由だからしょうがない。しかし
きせいがいねんの権限で押しつける傾向
あり。又、表面的な親切を、恩きせがま
しく押しつけるうらに、生徒の気を引こ
うなどという、した心があるように思わ
れる。自分では生徒の気もちをわかつた
気であるかもしれないけど、全くわかっ
ていないのだ。
最後に、女性特有の、視野のせまさを感
じ、もっと大きな目でみてもらいたいと
おもう。

二
年

なんとなくたよりない。

女生徒だからこ話してわかってほしい
という気持ちがあるのに案外わからん！

先生という感じが 全然わかない。
全体的に言っではでみてもらえない。

④ 英語の先生

課題 「くらはし先生は果たして良い先生か」
 方法 その1 先生のみのもえ調査
 その2 先生のこうどう調査
 その3 先生のいしき調査
 結果 その1 先生は女の人だった
 その2 ミルホールもMJQも知らないのだった
 その3 ルールについて「幣かに敬意を表はす」だった。
 考察 やはり先生はいい人なんだなあ。(Fめき2度)

⑤ 数学の先生

課題 「はつ子さんはわたしたちのアイドルである」

調査報告 先生はミルホールの常連
 だった。
 そして愛読書が
 別になし
 自分の事を真面目とは思
 っていない等々
 考えられる事 先生ってステキ☆



② 体育の先生

課題 「体育の先生は どうして体育の先生になったのか」

調査報告 先生は 生誕12時から 体育の先生でした (うソ)
 身長 160cm, 体重 52kg (カッコイ—1)
 それ BWHは…… きっと 000でしょう。
 結論 先生は 男に生まれてくるべきでした。



③ 現国の先生

課題 「もし長谷川先生が
 結婚していたら」

調査報告 先生のいつも行くところは？
 (Zin Zin)
 先生のサイズは？
 B—83cm W—58cm (本当は60cm)
 H—86cm

結論 結婚なんかしたら……ほく ヤータ

何となく信じられない。
 先生という自覚を どう受けとめている
 のだろう。
 女教師は 男の教師にくらべて 信じら
 れない。 もっとも、男の教師にも 信
 じられない人はいるが……。
 教師に対する情熱があるように見えるが、
 少し、冷たく感じる。
 人じゃネエ。
 まったく彼女たちは信頼できない。 いい
 人もいると思うが私たちのまわりのは、
 まったく、わるい。自分も女なのだけ
 ら、私たちのことを、もう少し考えて、
 行動すべきだ。
 派手である。一人ぐらいを、除いて、全
 体的に女としての欠点が多分に感じられ
 る。まだ人間ができていない。
 もっと広い目で生徒を、理解しようとす
 べきだ。感情的なのが、かなしい。

すなおに何でも相談できる先生になっ
 てほしい。なんかみえをはりあっている
 みたいでヤダネエ。少しおかしいよ。
 常識がかけているのでは？ (トソコ)
 自分の言葉が、どれくらい生徒の気持ち
 を傷つけるか考えてほしい。
 いつも一方通行で、心と心のふれあいが
 ない。進路のことを相談しても、女の先
 生は、おしゃべりであとあじが悪い。だ
 から、だんだん信頼できなくなる……。
 もっと生徒のことを考えて行動してほし
 い。

いつも、本心なしで、話しかけようとす
 る。そのくせ、人の気も知らずに、ペラ
 ペラと、生徒と話しさえすれば良いと思
 っている。
 相談にのってくれるというより、人のこ
 とを何でも知りたがるイヤナ人間。
 まるでゴシップを好んで”週刊誌”を読
 んでいるみたい。

……不思議……

その6

家庭の先生 2人

課題

「ゆげ先生は本当に先生なのでしょうか」

質問

1 先生は MJQ を知っているか?

答 いいえ

2 先生の一番大事にしているものは何?

答 健康

3 先生の PR は何?

答 「PR の材料が見あたりません。」 (うり——)

結論

先生はやはり「先生」だったのです。

課題

「たまき先生は子供か
何人いるかいないか」

質問

1 先生 結婚しているか?

答 はい

2 先生 BWH は?

答 いえせん

3 先生、ミロワールに入社して
ありますか?

答 はい

結論

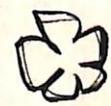
先生はやはり……!?

その7

世界史の先生

「あまり こういうアンケートは 好きではないので 答えしかねます。悪くからす
だて——。」

もっと人をいたわる心を持ってほしいの
デス。人のことを考えずに、ボンボンと
言われては二度と顔も見たくなくなるの
デス。いつも生徒の能力なんてないもの
と思っている。ひにくばっかり言って、
それで言うこときくと思っているんだか
ら。だれがきいてやるもんか! デス。
それに、服装をもっと考えてほしい。
(毎日とりかえればいいと思ってんだか
ら)
あれでも人の親かと思うようなカッコし
て、はずかしくて面と向って話もできな
い。



女 教 師

Josie



どうしてこうも女教師と言うと、一つのカ
ラーに、当てはまる人間ばかりが集まるんだ
ろう。一つのカラーとは、第一に、ヒステリ
ック。何しろ、その日の気分によって、減点
されるんだから、生徒はたまんない。第二に
おしゃれ。まあ何というか、シミチョコロのミ
ニなんてのは、平気なんだからね。我クラ
スでは、ある女教師が、同じものを着て来た
ら、パーチィをする計画まであったほど多く
の服を、あれこれ作るか買うか借りるか? し
て着て来る。それで自分では、おしゃれなる
ものをしてるつもりなんだから、なんだか
かわいそう。第三にかわいげない。生徒が、
女教師をいじめのを知ってか、知らないで
か、気の強くて、いじの悪いのが多いね。

うなのが教師の本当の姿と言えるでしょうか。
その上お高いみたいじゃ、近よりにくいのも
当り前のコンコンチキ。そのへんもちっと考
えてみたらどう? 女教師の方々よ。最近、
昔より女性の地位が、認められて来ているで
す。それでも、平等じゃないと思う。私が
クラスで、たくさん発言したら、「でしゃば
り女」と言われたくらい。女は、おとなしい
方がいいと、男性(女性も?)の中には、そ
んな風に思っている人が、たくさんいるんじ
ゃないかしら。今でも、完全にそれを信じて
る大人(男女共)は、たくさんいるんだから
いっしょの家庭に生活している私たちの年代
の人のだれの中にも、やっばりあると思う。
これは、男女問わずかな? これからの女性は
大変。女性のあるべき道を切り開いて行くん
だから。大切なのは、経済力を持つこと、自
分の本当の道、女性の本当の幸せ——結婚は
女の最大の幸せ——だなんて、男が自分たちの
ために考えたような言葉をそのまま信じない

で、自分で考える——それから、勇氣、そして
人間性。これなんだなあ私の言いたいのは。
女教師は、教師である前に女だろうが、女で
ある前に人間なのだ。お高いとか、いじが
悪いとか、よくないね。もっと素朴くで、
気どりがなくて、やさしくて、ユーモアなん
かもわかって、それでいて、情熱を持って仕
事しているそんな女教師がいたらいいのに
なあ……。

男の教師もいけれど、そんな女教師の方
がいいんじゃないかしら。女性の方が、感覚
や情感が豊かだそうだし。生徒をひっぱる力
には欠けるかもしれないけど、これからはそ
の点も満足させる女性が出て来ると思う。き
め細やかに教えることも出来るだろうし、第
一、男性的感覚でばかり教えられないのでは、
男女生徒が、不平等ではないか。

今のままでは、男女両生徒に、男と女では
女の方が、落ちる動物だと宣伝しているよう
なものだ。女教師の方々に期待します。

LE COEUR





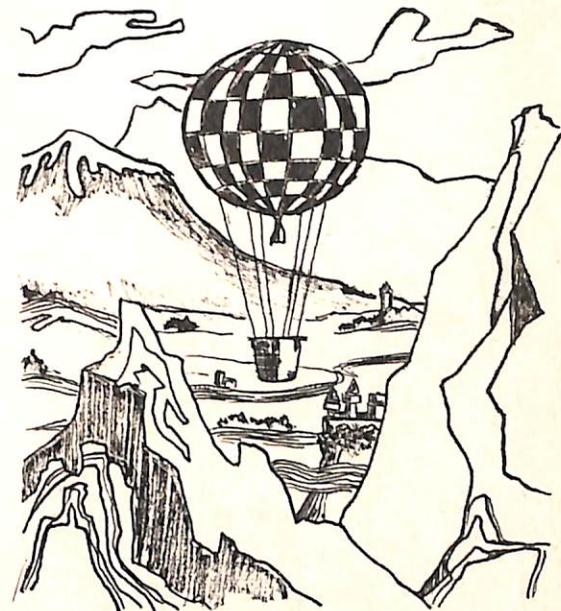
返して下さい
私の心を返して下さい
あなたの視線を追いかけて
私から遠く離れていってしまった
私の心を返して下さい
もう冷たくなってきた風が
なくなった心の残した穴から
吹き抜けてきてとってもさむいのです
お暇な時でけっこうです
送り返して下さい

送料はこちらで負担します

風のふるさと

あてもなく町をはずれて
ある日一人 旅へ行きたい
あてもなく海へ出るため
雲のように とんで行きたい
心をいためた 恋のかずかず
笑顔をふりむけ
なつかしみながら
あてもなく駅をよぎって
遠く遠く 風のふるさと

忘れてしまった夢のあれこれ
子供の心を思い出しながら
あてもなく汽車にゆられて
白い白い 風のふるさと
風のふるさと



紀行文



合宿HRをふり返って

一 A 川島茂明

四月二十日に我A組の合宿HRなるものが催されるのを入学式の日に担任から聞いた。僕は入学早々、こんなことがあるなんて、おもしろい学校があるもんだなあと、思っていた。担任からその主旨を聞いた。内容は「生徒相互の和」である。なるほど、これなら僕もうなずける。そこで僕を含む四人の男女が司会を引き受けた。僕が公の場に立つのは、これが初めてだった。自信がなかった。ホント。二十日までの間はとて忙しかった。スケジュールを考えたり、歌集を作ったりの毎日だった。

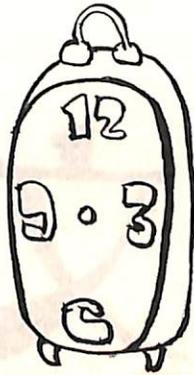
そしてとうとう二十日がやってきた。僕は集合場所へと足を弾ませた。集合場所にはほとんどの人がいた。しかし担任の顔が見えない。もしや……。やはりそうだった。事前に「時間に遅れるなよ。」と何回も言っていた担任が遅刻したのだ。クリオノ電車は十時

二十四分の両国発だった。電車にはそれぞれ好きなように乗った。発車してからいろいろゲームをした。窓をあけると快い風がはいてきた。時々、窓から顔を出してスリルを味わったりもした。そしてどうにか館山に着いた。そこで電車を降り、そこから根本海岸までバスに乗った。海岸に着き、バスを降りた

とたん、何とも言えない潮の香りを嗅いだ。ここから野島崎燈台までは歩きである。潮の香りに浸りながら海岸沿の砂浜を歩いた。来てよかったと思っただ。燈台から宿舍まではまたバスであった。宿舍に着いてから少し休憩し、風呂にはいった。風呂の次は夕食である。みんなで用意して席についた。まずはなかなかった。しかし僕としては、カレーライスが出なかつたのが残念だった。そして夕食も終わり、後片付をしてリクリエーションも終わりに近づいた。最後の催し物はプレゼント交換だった。自分の持って来た品物をクジ引きでそれぞれ異性と交換するのである。僕はかわいらしい湯のみ茶わんが当たった。今でもそれを愛用している。いいものが当たってくれたと思う。リクリエーションも終わり、担任の話も終わり、消燈時間になった。みんな床につき、遅くまで話をして眠った。そして一日が

終わった。しかし司会というものはむずかしいのお。

そして二日目の朝、眩しい光を浴びてこっそり二人で海岸に出た。今はもう春 誰もいない海 ジーパンとスカートが砂に足跡をつけて行った。五、六人男子ばかり出て来たので、二人で岩場へ移った。波のあいさつだけですべてが止まって静かだった。日はとうに昇っていた。何も話すことはなかった。ずっと、波だけをみつめていた。どのくらいいたっただろう。どちらからともなく、岩場を降りた。「ベチャノ冷たいノ」不覚にも足が浮わついていたせいか、水たまりいや潮水に足を浸してしまった。「大丈夫？」彼女の心配そうな声をよそに、もくもくと歩いた。冷たい右足をひきずって、銀色の砂浜をあとにした。波の音が淋しく遠ざかっていった。



ワンゲル紀行文

夏山合宿記

石田裕美

ところがバスの連絡が悪いため、二時半までのんびりと時間をつぶす。みんなはひまつぶしのための遊びを始める。カンケリをしていたところがバスの駐車場だったので、やってくるうちにバスのタイヤの下敷きになってグシャッとつぶれてしまい終わり。先輩のMさんたちは、かえるをつかまえて喜こんでいる。やはり都会っ子である。

「発車いたします。」

七月二十七日
集合六時。空にはもう太陽が顔を出している。本なら七時集合なのに列車の席を取るために、わざわざ一時間も早くしたので。ザックは非常に重い。フラフラしながら集合場所へ行く。タクシーで来る人もいる。また家の人といっしょにという人もいる。私なんかこれで三回山へ行くもんだから朝、

「ブルががけから落ちた。」
という声が外から聞こえた。当然、これより先へはバスが行かないのである。CL(チーフリーダー)やOBや先生たちは、今後のことを話し合った。みなだれも心配そうな顔をしている。結局、時間も遅くなってきたので、炊事班を手伝ったから、味はバツグンになり、

「石田さん だいじょうぶ。」
と……。やさしかったなあ、あの時、一声かけてくれたM先輩が。
テント地は五八木という所で、ここは国立公園であるため、設営は禁止されている。よって、特別許可をもらって……。芝生でよさそうな所だが、虫多かりし。

「いってらっしゃい。」
の一言で終わり。

「ブルががけから落ちた。」
という声が外から聞こえた。当然、これより先へはバスが行かないのである。CL(チーフリーダー)やOBや先生たちは、今後のことを話し合った。みなだれも心配そうな顔をしている。結局、時間も遅くなってきたので、炊事班を手伝ったから、味はバツグンになり、

私はテント設営班。Kさんと組んでベテランぶりを発揮したつもりなのに、OGから、「夜、テントの入口の下の方がしまらなかつたのよ。」

たえ集合が六時でも必ず遅れて来る人がいるのだ。これがワンゲルの欠点なのである。今回はA君。これでやっと全員十一名がそろった。

「ブルががけから落ちた。」
という声が外から聞こえた。当然、これより先へはバスが行かないのである。CL(チーフリーダー)やOBや先生たちは、今後のことを話し合った。みなだれも心配そうな顔をしている。結局、時間も遅くなってきたので、炊事班を手伝ったから、味はバツグンになり、

夕食は五目ずしとバイナッブル。私も少し残らず売れた。満足！
夜、寝苦しくて寝返りをうっていたら、K

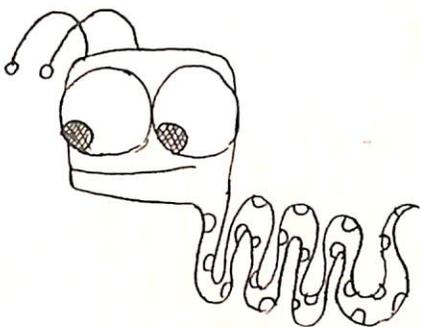
上野駅では、一時間も待ってワンゲル始まって以来、初めて急行に乗り、ざっと三時間

とOB四人で上の方へ出かけた。四十分くらいして、やっとCLたちが戻って来た。時刻

「いいかげんにしてよ、うるさい！」

というおっかない声を出した。Kさんとおっかないなーと、隣の声を聞きながら小さくうって寝る。

「アッ、雨の音」



着いた。すぐに出発。これからは今回の合宿の一番の難関のところ。ザックの重さは、きのうより少し軽い。どうにかなるだろう。

初めのうちはなだらかな道。まるで林の中の小道のようにきれいで感じがいい。ところが、だんだん上り坂になっていく。おまけに小学生などもどんどん登って行く。(ナップザックで)どこかの大学の人もほとんど同行く。アベック、家族づれ、すごいラッシュ。また、降りてくる人もいる。朝会った中学を途中で追いぬかしたけれど、またぬかされて、結局は午後私たちが高谷池までもう少しという所で、降りて来た。これがナップザックで登ると、ザック二十キロでの違いである。

私はどういうわけか疲れるには疲れるが、(そういう時は、チョコレートでも食べて元気をとりもどす)すぐお腹へっちゃって……困っちゃって……だからいつもお昼が待ちどおしい。パン・チーズ・ジュース・キュウリ。「フランスパンってかたいな。」

あとも半分ぐらいと思っ歩いて歩く。だいたい三十分おきに休憩。私はコースタイムの係だからたいへん。休む前にまず、仕事、仕事である。同じ係のN君も私と同じ。

休憩……空を見る。雲のすき間に青空がきれいだなあ……。なんていい気持ちになっていると、CLの悪魔の声。

「ザックしょって！」

こんな具合にバテる人もいなく、二時すぎに着いた。ポッカの時に比べると、高谷池まではそんなにたらくなかった。

今夜はカレー。私は炊事班。味はよかったがやや固い。(気にしない)かたくり粉の効果あり。今夜は昨夜と違い、明かるいうちに食事をする事ができた。

夜は眠くて、眠くて、すぐに寝てしまった。「今夜はOBも静かだな。」

七月二十九日(木)晴れ

「起床」って言われたって、起きるはずがない。私はいつも隣のKさんに起こされていくのだが、同じテントのIさんやYさんよりテントを出るのが早い。まだ四時であるのでまわりは薄暗い。みんな寝ぼけまなこで松高体操。「登山シューズはいているから、うまく跳躍できないヨ。」なんて思いながらも、跳躍する。

アッ、太陽だ。五時二十九分です。七時五分出発。高谷池をベースキャンプと

七月二十八日(水)晴れ

朝はいつも忙がしい。きょうの朝は特別ゆっくりできる。バスのつごうで出発は八時。記念写真を撮るとすぐバスが来た。

やっと、昨日中に着く予定の笹ヶ峰牧場に

して、妙高山へ。標高二四四六メートル。下見に來なかつたためか、二度も道をまちがえて、後からOBに注意をうけた。CLさんすごくかわいそうだったな。

ナップザックだから早く登れるだろうと思っていたが、CLから

「遅れているのよ。早く！」

と言われ、あせる。せせせと歩く。細い道でまわりに植物がおおい茂っていて、危く、こわい所も何ヶ所がある。時々、植物のすき間から、遠くの間々や雪溪がともきれいだ。アッ、黒沢池だ。きれいな湿地である。

「OH/BEAUTIFUL」

ノートに時刻を記録。また歩く。歩きやすい平地で、隣の雪溪がうす黒くなっていた。

階段をどんどん登り、目の前に見えるのは、岩のゴツゴツした妙高山である。あと半分である。ものすごいところを下る。四十五度くらいあると思われる所なのである。地図を見ると、等高線がしまっている。

それでもどんどん歩く。長助池に着く。水芭蕉が咲いている。ここでまた

「OH/BEAUTIFUL」

Dさんが貧血のため、ここに残ることになった。OGもいっしょである。Dさんは昨日も

七月三十日(金)晴れ

ついに四日間の合宿は、晴れて終わることになった。先輩曰く

「こんなことはめったにない。」とか。やはり、私の日ごろの行ないがいから、神様が……。なんてことも考えられるな。

美しい高谷池をあとに、登ってきた道を下り始める。今度は私のザックが一番軽い。足どりも軽く、バスの時間を気にしながら、どんどん歩く。だってバスが早く出発しちゃうと、笹ヶ峰牧場でインスタントラーマンの昼食が食べられなくなるから。

いくら下りとはいっても、やはり疲れる。黒沢までの道の長かったこと。沢の音が聞こえても姿なし……見えた時の嬉しさ。沢は冷たくて、おいしい。もう歩きたくない。でも歩かねば……。

また歩き出した。すぐにバス停のある牧場が見えるだろうと思っしたが、全く見えない。一時間くらいたって、やっと見えた。さあ、インスタントラーマンだ。また石油が減って軽くなる。初めから終わりまで、重さのかわらない人は少しかわいそうだった。

雨を……

三年 中西

雨を……

この目に見えていなくても

静かに降るその音に

私は私の大好きな雨が見えるのです

白くけぶり、降りこめる雨のことばが

深く、寂しさに黙りこくる心にひびいてくるのです

いくすじも いくすじも

いくすじも いくすじも

たえまなくおちてくる冷たいしずくが

私の心をしっとりとしめらせるのです

そして

深く流れる私の想い、ためいき、感受性が、

ふしぎな感激にうちくだかれ

いいような自然のことばに陶醉し

美しい雨を私のほほに感じるのです

歌を歌うことが

詩を愛することではなく

瞳をみつめることが

その人を愛することではなく

ただひたすら 自分の道を信じ

いつまでも強く生きることが

討をつくり

やさしい愛を持つことだ

そして

素朴に純粹に生きたものだけが

広がる夕焼けに涙し

野に咲く花をいとおしみ

いつも 現実からはなれてしまわない

本当の夢を抱くのだ

泣いて潮の満ちひろがる

ふしぎな海があったんだ

そん中で

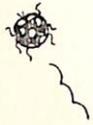
ぼんやりとうかんで空を見てたら

へんな苦しさがどんどんあふれでていって

疲れた心が ぬけがらみたいになっちゃまった

九月七日

おとうさんの お誕生日に
「雲」という名の 写真集を買った
ひとりぼっちの夕焼けの黄色い光
七色の虹をうつすやわらかなひろがり
そして青い空にとけていく白さ
本屋さんのつけてくれたカパーを
バラバラと解いて
きれいな包装紙でつつみ
リボンをかける前に
自分で
いっしょうけんめいみてしまった



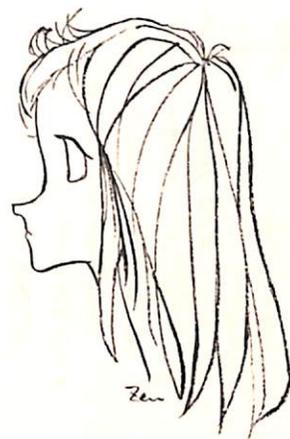
Zen

とつても
大きな気持ちになって
私の心は旅に出かけた
こんな雲のある海のところがいいな
こんな雲のある……
こんな雲につつまれた……
私の心は軽くなって
ふうわり ふうわり奇妙にうかんで
いつのまにか 涙をいっばい腫にためた
……
どうしてこんなに 寂しいのかなあ……





こわいものしらずの
その人はね、
まあこんな時にノって驚いた顔してみせても
さっさと海へ行ってしまったの
でも、夏がすぎたら私はひとりぼっち
海に行くには
汽車にのって……
このお家をどうにかして抜けたさなくては
ならないから……
それにやっぱり今の私は あまりに子供すぎるから



お月様がまぶしすぎて ねむれないのです
……
私、まっ黒に日やけした
あの船のりに恋してしまっただけなの
その人がね、
窓からいつも月がみえてねむれないんだよ。
って言ってたのがおかしくてしかたがなかったのに
……
風がつよいと 私の心はいつもおびえていました

生徒会報告

整美委員会

この数年間のル・クールと同じように、整美委員会の反省をしてみたいと思う。

毎回取り上げられているのが委員の自覚である。月一度の委員会に、一年生はほとんど出席してくれるのに、二年、三年としたいに出席率が低下する。特に三年生は大部分が、出てこないありさまである。連絡にしろ万全ではないが、全力を尽くしてははずなのだが。

しかし整美委員の仕事は、委員会に出るだけではないのだ。毎日毎日のクラスでの仕事を中心なのだ。ふだんの清掃の指導や、大掃除の計画や指導など、クラスでの役割りが、あまりにも多いのではあるが、各委員はどのくらい自覚してやったかは反省の余地があると思う。

しかし整美委員の仕事というのは少し多すぎる感がある。毎日の指導から、大掃除の計画・指導、それから花壇の手入れ etc.

全く委員の奉仕という仕事があるのだ。そのためか当初の予定とは大幅にぐいちがってしまい、各係の連絡の不徹底、各人の心構えのあまさなどがいろいろの問題を引き起こしてしまった。けれども委員会側としては、ただ手をこまねいていたのではなく、この短い時間の中で十分いろいろな点について練り上げたつもりなのだが……。

各クラスの委員は協力的によく働いてくれた。けれども各クラスと委員会とはなれていたような気がする。当日になって、その問題が驚くほどあきらかになってきた。ようするに体育祭というものをただ体育委員会からまた学校から与えられたものとして考えている人があまりにも多いのではないかという事が考えられる。今年の体育祭はいろいろな点で成功とはいえないが、これらの事から来年もぜひ体育祭を行いたいと思う。もう一つ行なった行事としては球技大会があった。

そういうものが委員の士気を落としている一因でもあろう。しかしながら毎日の清掃などに関しては、生徒みんなの協力が必要なのである。いくら委員のみんながはりきっていてもみんなが何もしてくれないのではやりたくならざるを得ないのである。

委員長の方としても、委員会で話すのはほとんど委員長ひとりとなってしまったこと、それに決定する時に、各委員の意見がほとんど全く取り入れられなかった点は反省し、後任にこの点を改善してもらいたい。委員長がワンマン的だったので、各委員としては、意見を出しずらかったのではないか？

各委員の自覚とのかねあいもあるが、委員長がひとりですべて話しているという状態を解消する必要があると思う。

生徒諸君に望みたいことがある。貸りた物は、ちゃんと元のところへ返すということである。大掃除などであるいろいろな掃除用具を、貸しているのだが、なかなかそれを返しに來てくれないのである。その為、いつも数が不足しているのが更に不足して、なかなか全クラスに一度に貸すことが不可能になっているのが現状である。クラスの用具が不足しているところもあるが、そういうのは整美委員を

通して、委員長の方へ申し出てほしい。不足しているのはほとんど補充し、貸りた物はちゃんと元のところへ返すことを守ってほしい。それから、月に一度、大掃除を行うことになったが、サボラズにみんな委員に協力して、彼らの指示に従って行なってもらいたいのである。

新校舎の建設が進んでいるが、新校舎ができるからといって、現在の校舎をそのまま放っておいてはならない。毎日毎日の授業などが、少しでも清潔なところでできるように、全校の生徒諸君が協力しあってももらいたい。

体育委員会

前期の体育委員会の当面の目標は、まず体育祭を成功させる事にある。今年は例年とは違って体育祭を五月に行なったのである。その原因としてはまず校舎の改築に伴う校庭の破壊である。そのため本委員会としては、例年で行くど半年かかって作りあげる体育祭の原案をわずかに数週間で作り上げたのである。

こんな僕等を一つの行動に結びつけた理由に委員長や先生、そして司書の方のお力をあげないではいられないだろう。最後の一言、楽しい委員会だった。

図書委員会

図書委員会というところでも一番おとなしい委員会といえるそうだが、今年だけはそんな言葉があてはまらない委員会のようなのだ。

悪く言えば乱れてるとか、その他いくらでも言えようが、良くいえば、活発性、同じような言葉で行動性に富んでいると言えるだろう。読んでもらったか否かは疑問ではあるが図書新聞の発展、そして何年かぶりの文化祭参加、いずれにせよ発案しちよつと考えしすぐ実行。こんな事が実ったとも言えよう。しかしその反面、例年になく図書館がなごやかと言おうか、うるさいと言おうか、いつもの調子をくずした事もたびたび。ここでもう一つ大事な事は、先月、図書委員会の小教ではあったがアンケートの結果、皆図書委員会が好きだとき。こんなすばらしい事があるのか。僕等の中にある行動性なんて案外こんな中にあるのでは。一口に言って、なんでもい

放送委員会

今、この文章を読み始めたきみに、最初に一言、これは放送委員会の、元現職委員長の戯言である。次に、お詫び、私も放送委員会で、報告文をテープに録音し会員各位にお配りするつもりでしたが、松高も都立高校の例に洩れず財政困難のため、断念せざるをえなくなりました。そこで第二案として、有線放送を使うことを思いました。ところが、音は人間の耳を烈風の如く右から左へ通り抜けてしまうそうなので、考えた揚句の結果、音を逃さないように耳に栓をしてみました。ですが、音は不思議なことに聞こえなくなりました。結論、放送委員会は、無駄な抵抗をやめ、文章を書くことにしました。放送、それは空気のようなものです。松高

において、放送は、沈黙したことはありません。常に何かしら音声を発しております。某所で集会が開かれるという連絡であり、ニュースであり音楽であるのであります。

このように松高において放送委員会は欠かさざるべき存在なのですが、ここに一つ問題があるのです。現在の委員数を調べてみると二年生が四名、一年生が九名、三年生が？名という少なさである。何故でしょうか？ 答え、それは、他の委員が全く活動に参加してくれないからなのです。ちなみに我がMBSは、最近放送部と呼ばれるようになってしまった。委員会と呼んでくれる人は、まず、いない。その原因は、そう放送は活動がどうしても娯楽的になってしまいうからだろう。しかし呼ばれる時、部長より委員長の方が少しは偉く聞こえるのでは？

ところでMBSとは何を意味するか御存じですか。暇な方は英和辞典をひっぱり出して調べていただきたい。但し、MBSと調べても絶対出てこないのが、BSのみ調べていただきたい。

無気力集団と云われる松高において、体育祭では、影の存在として大活躍し、文化祭では、見えない土台として祭りを進行させてい

るのです。そればかりでは、ありません。普段においてさえ、放送活動や取材をしなければなりません。こんなに忙しいのに、報われることは少ない。これがMBSなのです。決して松高生は無気力ではないことを証明するために頑張っているのです。忙しくても必ず心の中に何かが残る所なのです。一宣伝は、この位にして、MBSの今期の活動は、いかがでしたか。私達としては(特に私としては)やれるだけの事は、やったつもりでいます。反省すべき点も多々ありますが、文が長くなってきたので省略させていただきます。

委員会、みなさん承知の通りである。二千三百七十円で一年間やっていけるかどうか。しかし私達はやったのです。従来から大問題としてとり上げられてきた服装の問題は、生徒会の協力で自由化という結論を持ち出したのです。その他にも文化祭の警備、生徒総会の管理、エトセトラ。活動的な委員会、それが生活委員会である。しかしもう少し、三年の委員に活躍してもらいたかった。一部の人は協力してくれたが、前期においては一年生の活躍が目立った。委員長と委員達が一体となって前進してゆく委員会である。

生活委員会

これからは、おもしろい、いやとてもタメになる番組を放送するつもりでいます。まだまだ書きたいことは、たくさんありますが疲れてきたのでおわりにします。

選挙管理委員会

選挙をやっている、一番強く感じたこと、それは生徒の無関心さ、無気力さ、自主性のなさである。選挙などというものは、生徒役員の選出において、それを取計う、いわば、とても事務的なものであるとさえ思えてしま

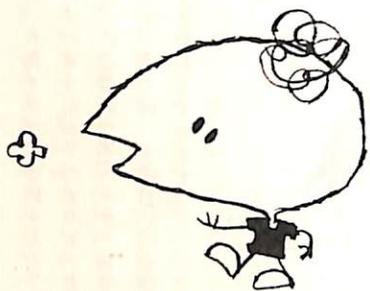
発展委員会とせよ。

う。すなわち、我々は松原生徒会保存委員会なのであり、その権限で選挙の時に某特定個人を追いかけ回し、なおかつ定員に満たないと見ると、やれ強制的だなんだと云われながらも、要するに人数を集めさえすればそれで済むのだと自己を人数集めのロボットにして「一般生徒の協力を望む。君達は一体、何をしておるのじゃ。」自分は、選挙であり被選挙権を持たないので、やたらとカッコいいことをほざいて、人数が集まれば、ホッと胸をなでおろし、あとは知らん顔……。

お恥かしいことながら、今までを振り返ってみると、前記のとおりであったように思える。だが、何が俺を変えたのかは知らぬけど今までの観念が次第に崩れ落ちていくのであった。つまり、事務的な人数集めではなくて、選挙の責任の重大さ、我々の手一つで生徒会を、否、果ては、松高を生かすことも殺すこともできるのだ……と。

こう感じただけでも、とても素晴らしい進歩であると思うのは、自分一人であろうか。さあ生徒諸君の中で、生徒会役員から逃れたい者よ、そして松高を自らの手で牛耳ってみたい者よ、今すぐ選挙となろう。そして松高生徒保存委員会の汚名を返上し、松高生徒会

保健委員会



皆さん、「保健委員」と聞くと、可愛いNURSIEを思い浮かべますか、それとも恐ろしい悪魔？ 少なくとも松高の保健委員は、前者であると思えますがいかがですか。

この可愛いNURSIE達は、この美観に富んでいるとは、少なくともいえない松高を

少しでも清潔にしようと、日夜働き続けているのです。まず、毎日の保健室当番(これは、いろいろな怪我の手当てを手早くやる仕事です)。またトイレ、水飲場の石けん配り、春季体育祭においては、救護係を務めました。それから、生徒会会員と保健委員とを結ぶ新聞「保健だより」の発刊、総務会においてもこの会の一役員として活発に活動してきました。このほか、まだ多くの仕事がありますが今後松高を少しでも清潔にするよう心がけていきたいと思えます。

文芸部

皆さん、文芸部というクラブがあることを知っていますか？ 一年生の皆さんには知らない方が多いかもしれません。事実一年生は一人の入部者もいませんし、他校でも文芸部のある高校は限られています。今年で丁度二十才を迎える、松高文芸部は、後一年足

らずに廃部になるかならないかの危機にみまわれているのです。

創作意欲のある方なら、どなたでも歓迎します。それに自分の思った事、考えた事が活字になるなんてすばらしいことだとは思いませんか？つまり、自分自身の本が出来るということなのです。詩を書いている人は沢山いると思います。そんな方達なら誰でも入部の資格をもっているのです。一年生の皆さん、高校生活を楽しむにはなんといいってもクラブ活動です。自分達の個性を生かせるクラブに入り、新しい気持ちで、もう一度、自分達にとってクラブとはどのようなものかということを考えてみようではありませんか。

では、クラブの活動について少し。現在部員は十五名で活動は本を読んだり、その感想を話しあったりするばかりではありません。もともと、個人プレーですから、クラブのまとまりというものはつきにくいのですが、クラブ内でノートの交換などして交流を図っています。週に一度の部会が精一杯ですが、それでも『戯言』という最大のそして、クラブの存在を明らかにする部誌が私達、文芸部のものなのです。

いつも何らかへの疑問と、あらゆる物に対

して新鮮な感動を有する事のできる人なら誰でも、文芸部へどうぞ!!

食物クラブ

いったい食物クラブって何すんの？なーんて言う人はいませんか？つまりもっと上品にいうなら、COOKINGクラブとでもいいましようか。週一回、火曜日に弓家田先生を頭にして活動をしています。

自分達の作りたいもの、食べたいものなら、何でも作っちゃいます。こんな楽しいクラブは他にあるでしょうか？

ケーキ、クッキー、プリンにサンドイッチピラフにラーメン、コロッケにサラダ、どんどん作れます。そしてもちろん食べることも。月に四日、だいたい一回はミーティング。そして残り三回が実習。今まで何もできなかった人だって、すぐにでも作れるようになるのです。料理学校なんていかなかったって、とってもいい花よめ修業！

さあさあ、ちょっと顔を出してください食物室へ。勿論男女ともに！現在の部員十九名。



イールまで鮮明に浮かび上がらせなくてはいいけません。

そして影と光。両者の間には、光量の差があることを忘れてはいけません。よくあるでしょう。シルエットになっている写真。わざとそうしたならともかく、海をバックに記念撮影なんかをすると、海はでていっているのだが、人間は真黒だ。また、人物はでていっているのだが、バックの海がハイキーになってしまっている。こんな風になったら、せつかくの記念写真も目茶苦茶です。ここに出てくる問題はやはり光量の差です。フィルムには必ずラチチュールド（光量の差をカバーする範囲）というものがあって、それをうまく使いこなせばもう問題はありませんが、ラチチュールドの狭いフィルムを使う場合。あるいは影の部分と明るい部分の比が二十以上ある場合は、どうしても前に述べた記念写真の例のようになってしまいます。それをカバーするのが日中シンクロです。フラッシュとかストロボを使って、回りの露出と合わせて最終露出を定めるわけです。カラー写真の場合は特にそういう事が

演劇部

写真部

今年の文化祭で、演劇部の「山羊の島の犯罪」、皆さん見てくださったでしょうか？

深みのあるもの、考えるものをやりたいと我々には思い、今度の劇を上演したのですが、結果として、いろいろな人に聞いてみると「少し難しい」とか「結局どうしたの？」と云う答えが戻ってきたんです。これは台本を読んだ時から考えていた事なんです、やはり文化祭の劇は部員だけではなく、内容的にもわかりやすく、見ていただく方にも満足していただけるものでないといけないと考えてしまいました。

以上の今までの反省でしたが、我演劇部、今年はまだたく怠慢な部長のため、新入部員が大変少なかつた。普段はあまり目立たないクラブですが、気楽でみな楽しく活動しているクラブなんです。「今年こそは」と毎年冬の公演を予定するのですが思う様にはいかないあり様ですが皆頭張ってます。

光と影。いかにしてこの両者を使い分けるか——これが写真部の命題です。

光はあらゆる物にカラフルな色をあたえます。太陽のスペクトルは、物体に鮮明な色を与えてくれます。蛍光灯の下で物体の色が少し違うのは、蛍光灯自体が緑色の光を出すからです。それと同様、異なったメーカーのフィルムで撮影すると、そのものの色がでない事がよくあります。それはフィルムベースの色自体が違うからです。又、カメラによって同じ事が言えます。レンズ自体は無色透明なのですが、レンズにほどこしているコーティングが異なれば色は変わるものです。被写体の色をいかにしてそのままズバリとだすか、難題です。

影は、黒とは違います。影だから色がないという事はありません。その影をいかにして写真として表現するかです。影の中のディテ

誰か、僕等と写真の議論をしてみませんか。その一部を文化祭で展示しました。そして別に写真の知識がないからといって遠慮することはありません。少し言わせてもらおうと、昨年の入部者の中には、カメラも持っていない。写真の事など何もわからない。という例もあります。しかし今では、そんな人達も立派に活動しております。最後に、全部読んで下さったあなた、どうもありがとうございます。

合唱部

天文班はあまり活動していないが、この大接近(火星)の前後三日間観測を行った。残念ながらうまく撮影できなかったが、天体望遠鏡で見るとでっかく見えた。みんな喜んだ。まあこんな単純な奴らがいるクラブなのよ。みんな物理などというと、実験をしてその結果を、なんて思いがちだがとんでもないみんな遊び好きな奴ばかり、自動車班の奴らはオートバイをのり回し、電気班の奴らはいろんな奴と交信したり、電気おもちやで遊んだりしてひまをつぶしている。一応部費として百円とっているが、二つの班に入っても百円がいい。実際私めは三つの班に入っている。

あなたは、合唱部に対してどのようなイメージを持っていますか? 『まじめ派の集まり』などと考えている人は、いませんか? フォークの好きな人も、ロック気遣いの人ももう少し歌の枠を広げて、いろいろな歌を歌ってみては、いかがですか?

物理部

我々、物理部は毎年言うように、三つに分れている。御承知の通り、まず機械班こと自動車班、電気班ことアマチュア無線班、それと天文班と分れている。自動車班は、木製自作小型オートバイを製作しました。これからは、ゴーカート、現一年は船を製作したいなどといっていますので、船も作ってみたいと思っっています。アマチュア無線班は文化祭等で数々の功績を挙げてくれました。今まで百数十局と交信し、QSLカードも相当たまり、

四十六年度の文化祭は大成功で、自分達の歌った歌に、感激してしまっただけです。高校生活におけるすばらしい思い出の一つになりました。では、本題にはいり「合唱部」を簡単に御紹介します。

現在、部員は、二年生十七人、一年生十七人。(一年生の人数不足には、頭を痛めています)活動日は、火・木・金曜日、三時半から五時まで。時々、話し合いたい事柄がある場合には、月曜日にミーティングを開きます。活動内容は、まず発声体操、発声練習、コンコーネをやった曲にはいります。今、わら

べ唄から宗教音楽までのあらゆる種類の歌に取り組んでいます。そして毎週木曜日には、滝沢先生に一週間の成果を見ていただき、色々な御指導を受けます。

今年一年の主な計画内容は、文化祭をはじめとし、みんなからの要望によりコンクールに出場、各団体主催の演奏会鑑賞、他校の合唱部の見学、合宿等々です。

合唱部の本質は、歌の上手、下手ではなく参加することの意義、音との接触であります。「歌を歌う」これは誰にもできることです。改めて「合唱とは何か」を認識し、あなたもこの楽しい合唱部の一員となってみませんか。

社会科学研究部

社研に入部した動機は、人によっていろいろである。社会科学を学んで討論をするんだという人もいれば、他に入るクラブがないのだったしかなかった、入部した人もいる。又、少しおもしろそうだからという興味半分に入部した人もいます。このような人間の集まりだ

から、活動も変わっている。マルクス、沖繩について真面目な顔つきで語り合う時があると思ったら、一転してくだらない話に夢中になることもある。生徒諸君の中には、社研はみんな変わっていて、話しくい人間の集りではないかという人もいるかもしれないが、決してそうではない。このようにおもしろい人間の集りなのです。

華道部

しかし社研は、考える時ははじめに考える。文化祭の時、生徒の政治的関心の薄さに失望した僕は、いかにして政治の重要さを、みんなの前に示すかを考えた。これを始めとして「空想より科学」「中国」についても、学習会を開き討論している。社研はこれからも考えるクラブ(たまにはふざけるが)として永久に活動していくだろう。

そうあれは私が華道部にはいつて、間もない頃でした。家に帰って生け直した後、私はバレーボールをして遊んでいたのです。突然、そうあれは不意の出来事でした。私の手からボールが離れ、お花の上にポカン!! あわれ小さなお花はくきだけになってしまいました。そこで私は、ない知恵を絞って、必死に考えたのです。そこで私はとうとうやっしまいました。そう私は、セロテープを持ってきて、それはそれは上手にお花とくきをくっつけてしまったのです。

私ってダメ子ちゃん!! 皆さん、華道部をどうぞよろしくお願い申し上げます。

オソマツ!!

ブラスバンド部

十月中旬：新部長誕生の時である。わがクラブの一年の始まりは、この時である。新部長が誕生すると、クラブの雰囲気は違ってくる。一年の部長と一緒に、ややもすれば不活発になりがちな冬の時期を乗り越えてやろうとする部員が動きだすのである。そして三学期、次年度の新入部員を受入れるために、動きは盛んになる。新入部員が入って間もなく体育祭の準備で、急がしい毎日が続く。体育祭の後には、文化祭の準備が始まっているのである。

夏の合宿、OBやOGの方々も来て、指導にあたってくださる。我々は山田温泉で合宿をするのだが、練習は、合宿場から山をいくらか登ったスキー小屋で行なわれる。美しい風景が今でも目にうかがふ。そんな中で、あまりが一層強まり、文化祭で演奏する曲も、さまになっていく。

二学期ともなれば、毎日のように練習である。他校との合同練習で補っている。他校体操部とのつながりも盛んになろうと思っている。今年の夏の合宿は全種目そろっているところである。男子六種目。女子四種目。ごらんとおりこの数種目を平均的に上達させていくことはこれもまたやっかいなようであるが、静止と動き、調和、柔軟さ、何よりも大きな演技を行なう、という面のこれらがみな全種目に共通しているため、これと違って嫌いな種目はなくなってしまうものである。そして好きになっしまえばもう言うこともない。目標として、今年から学期末に発表を行ない、ひろく生徒にアピールすることによって、全校に体操部の存在を知ってもらおうということである。

剣道部

我が松高剣道部は、現在顧問の林先生の指導で、意欲に満ちた女性四人を含む若者二十六人の部員が、月・木・金の週三回の活動日に練習に励んでいる。また夏休みには、長野

る。OBもおいになり、練習にますます、力がこもる。練習が終わり、ネオンのついた日大通りを、一緒に帰る。部員間には、何ともいいがたい温かなものがある。

そして文化祭。一年の活動に、ひとまず、終止符を打つ訳であるが、様々な経験が、我々を向上させていると信じる。高校時代という大きな精神的成長期に、音楽をやったということは、たいへん思い出深いものがある。中学からやっている人と、高校から始めた人とが、音の美を深める。自分自身で音の美を、何とすばらしいことではないだろうか。

体操部

クラブになって一年。そして同好会から数えて四年。まだ体操部自体の歴史は浅いが、ようやくクラブとしての活動を開始しはじめた。その成果として、女子は春季・秋季新人戦に出場。男子は今年は見送り、来年にそな

県にある山田温泉松高寮においての合宿が行われている。さて、では何故我々が剣道をやっているのかを少し述べてみることにする。

剣道を行う目的は、人によって異っていると思う。しかし、剣道を行うとまず、身体の発育に良く、体力と耐久力が増強する。また忍耐力、決断力、集中力なども養われ、礼儀も正しくなる。剣道は、礼に始まり礼に終るスポーツであって、大変礼儀が重んじられることなどである。剣道部はただ活動の時に集まって練習するだけでなく、ふだんの学校生活においても部員達の間には深い交流がある。また、剣道部には、「松高剣友会」という、OBの会があり、合宿の指導は勿論、ふだんの練習の時にもやってきて、我々に稽古をつけてくれる。そして時には、大学の様子などを話してくれる。

尚、現在の部員のほとんどが有段者であり現在の我々の課題である「体の剣道」から、「頭の剣道」への技巧の転換がなされることに、今後大きな期待の持てるクラブである。



えることにした。

体操は、一つ一つが初歩の基礎である土台の積み重ねである。技を一つこなしただけというよりも、技そのものが成長していく全てのスポーツのように限りが無い。もちろんここまでするのには並たいていのことではなく、比較もできないほどだが、自分達の身近にある体操というものの接触は、その一歩手前の、一つ技を自分のものにしたまねごとにも似た、いわゆる中途半ばな中にも感じられるよろこびである。

わが松高の体操部といえば、まず器具の少ないことが残念である。しかしこのことは、

柔道部

「柔道部?」「恐ろしい」とは人がよく言うところのことです。けれどそんな事はない。(特に松高柔道部は)「柔道とはなんぞや?」「それは男性的かつ健全なスポーツであり、また柔道をやれば、体力、耐久力が増し、注意力、集中力が養われる。だから部長を筆頭として部員は「エリート」ぞろいである。(多少変り者あり)。

しかし、そんな私曰く、「いい柔道部」でも沖繩問題に勝るとも劣らない悩みをかかえている。それは一年生が少ない事である。だからいつも少数の同じメンバーの練習で気はくりに欠けてしまうのである。

体育館で練習をのぞいて「ちよつとやってみようかな」という気が起きたらどんどん入部してほしい。「先着何名様」なんてけちなことは言いません。

練習のあった次の朝、筋肉痛で重い足を引きずりながら学校へ行くのもなかなかおつなものですよ。

バスケット部 (女)

我、バスケット部は人数は少ないながらもすばらしくまとまりのある楽しいクラブなんです。松高にはいつてバスケット部にはいないなんて、一生後悔するかもしれませんよ。今からでも遅くはないんです。

練習日は火曜と土曜が体育館、月曜、木曜金曜は一応外という事になっているんですけど、やらない日もあるんです。夏休み、冬休み、春休みも練習があります。あんまり遊べないんですけど、かえって充実していると思いますよ。それに日曜日がとっても楽しみになりますよ。練習は夏休み過ぎるまではちょっときついな。でもそれから、割合に楽だと思えます。

私達、よほどの事がない限り、このクラブをやめることはできないと思うんです。なぜかって、第一に私達皆、バスケットが好きだから、第二に先輩や仲間達が、本当にみんなに自慢したくなる程いい人達だから。それに

最後に、私達とにかくよく食べるんです。クラブやめたら、食べるだけ食べて運動をしないんだからどうなるかはわかりきっていますよ。ね。

女子は、新人戦の二回戦目で負けてしまったんです。でも五月には関東大会が待っています。今度こそは絶対に……さあファイイト!!

バレー部 (男)

十六対十四、かろうじて、第一セットを先取。九対十五、あっさり同点にもち込まれた。そしてファイナルセットも十一対十四、絶対絶命である。

バレーボール国体予選、二回戦の対日本橋戦の事である。強いながらも、公式試合では一度も勝利を味わった事のない僕達が、又、今、負けようとしている。

ブロックポイント!!十二対十四。しかしまだ無理であろう。ブロックポイント!!十三対十四。おや?もしかしたら。ブロックポイント!!十四対十四。やったぜ!ジュースだ。よ

バレー部 (女)

し行くぞ。我等のアタックが決まり十五対十四。勝てるぞ!!やったぜ!!相手のアタックがエンドラインを割ったのだ。勝った。ワー! 初めての勝利。

あれから半年。二年が八名。一年が九名。マネージャーが三名で、練習を続けている。今までの成績最高は、ブロックベスト四である。来春の大会には、ブロック優勝をめざして練習を続ける若武者、バレー部に期待されたい。

二年 桜井さと子

基礎を確実にマスターするようにしています。

現在の部員は、コーチを中心として、二年が五名、一年が八名、マネージャーが二名の部員で毎日の練習に励んでいます。

今年の大会成績は、春の大会ではまだ三年生がいたので良かったのですが、夏の大会は二年と一年のチームで、はじめにも大差をつけられてストレート負けをしました。しかしこの次にある新人戦は部員全員がいっしょうけんめい練習をしているので良い成績がおさめられると思います。

軟式庭球部

今年のテニス部は今までのモラルを破って男子の新入部員が非常に少なかった。今思いつく事を挙げてみると、男子相互の理解不足そしてそれに伴うクラブ全体としての相互理解に欠けていたと思う。顧問とクラブ員、コーチ、OBとクラブ員などの問題にまで発展していると思う。しかしその反面、我松高テニス部特有の一面のコートでの男女共有、そ



れによる理解、つまり、ほんの部分的ではありませんが、ステキなカップルが生まれたのも事実なのである。

ある者がテニス部は馬鹿の集団だと云った。何故だと聞くと、「朝晩ずっと、果ては春、夏、秋、冬の休みまで毎日毎日、練習に明け

ばないのである。なぜかと云えば、我々の先輩方はそれこそ口では表わせない程絶大なテニスキチがいてあったからなのだ。さて、皆様、お考えになったことがあるだろうか? 馬鹿と気狂いの差を。おそらくわからないかもしれない。事実、私達でさえふだん肌つき合わせているからそう感じているのであって、はっきりとはわからないが、まだまだ馬鹿であって、気狂いにはほど遠いと思う。

そして今、我等松高テニス部員がなすべき事は、はやく真のテニス気狂いになるという事なのである。けれど、それにはだいた敵が多いようだ。まず、一番の敵は学校である。学校のクラブにはいつて活動しているのに、こんな事をいうのはおこがましいが、先日云われた雨の日の中央廊下のことについての事或いは練習日程についても。

暮れているからさ。」と彼は云った。それを聞いて、あゝとっても喜ばしい事だと思ったのは果して私一人であつたらうか……。

クラブ内部でも「我々は偉大なるテニス馬鹿の集りである。」と云った者がある。だけど、それでもまだOBその他諸先輩方には及

つていくと、ドーンとはじき返してしまう厚い壁のような感じなのである。けれど、こんな事には負けずにその壁をくずすか、あるいはその壁の内側で精一杯力を発揮するか、それはすべてこれからにかかっている……。

先輩諸氏よ、我クラブがまたもとのキチガイクラブになる事を願う!!

校舎改築にあたって、我クラブにはあまり影響はないが、どうか他のクラブの方々、ひがまないでほしい。

サッカー部だより

サッカー部ができて四年かな？ だいたいそのくらいでしょう。あやしいけど、なにしろできてから日が浅いのです。つい最近まで我々はけなされ続けていました。(えっ、今もけなされてるって?)、『弱い』『あれでもクラブかよ』などという言われてきました。そんなことでよくよしては……と我々は練習をしました。雨の日も風の日も、霜の降りた寒い朝も、といってもまわりの人の目には、単なる『あそび』にしかうつらなかつたでしょう。しかしその中で我々は何か重大なことを学んだようです。それは『チームプレー』でした。一番だめだと言われた『チームプレー』でした。そしてついに新人戦では無敗でブロックの中のトップの座を掴みまし

野 球 部

野球部。それは松高で最も実力があるクラ

た。もともとブロックといっても四校の中の

トップであるが……。今まで手にしたことのない関東大会東京都予選へのキップを手に入れたのでした。それも引き分けさえあるが、他校をまったくよせつけず、ものにしたのです。これは『チームプレー』と気力の勝利』といってもよいものです。そしてこれは、黄金時代にひびいてくるものです。もちろんこの時代は一回きりに終らせません。これから第二、第三の黄金時代を期待してもらいたいのです。しかし我々の築き上げた黄金時代は、泥沼からはい出てつかんだものだということを忘れないでもらいたいです。それにこれは、OB、現三年生の方々の勝利といってもさしつかえないものです。そして、マネージャー嬢にも感謝すべきでしょう。当面の目標は都予選一本にしぼっていきたい。いっしょうけんめい全力で良い試合をするように。

部長の原君

ポジションはキャッチャーです。彼は彼のすばらしい判断力をいかし松原の勝利を導いたのです。そして彼は日夜練習にはげみ、授業中でも野球のことが頭から離れないほどに野球を愛しています。

次にピッチャーの飯高君

彼の強気なブレイには定評があり、それがすなわち勝利につながってきたのです。ピッチャーながらも彼のバッティングと足には定評があり、盗塁率百パーセントという実力を誇っています。

ファーストの坂井君

一年生にもかかわらず、常にチャンスでは快打快走をし、チームの立て役者です。試合ではノーエラーを誇りとし、チームの勝利に

彼もまた貢献したのです。

セカンドの村井君

彼は短身にもかかわらず、すばらしい根性を持ち、試合では常にチームを元気づけているのです。過去において「あせりの村井」という御名がついていたのを、二年になって責任を感じたのかその御名を克服し、常におちついたプレーを誇り、バッティングでもポイントゲッターとして活躍してきたのです。

ショート西山君

彼の職人的野球センスはチーム随一で高校野球界でも彼の右に出る者はいないというほ

どの実力です。バッティングの方はまだふるいませんが、すばらしい選球眼をいかし細かいプレーを得点に結びつけてきたのです。

サードの本多君

過去の記録から彼は試合には弱いという欠点があった。それをみごと克服して九月に行なわれた新人戦ではノーエラーという大記録をたてた。まだ試合慣れしていないということもあったが、これからの新しい選手。

レフトの小根山君

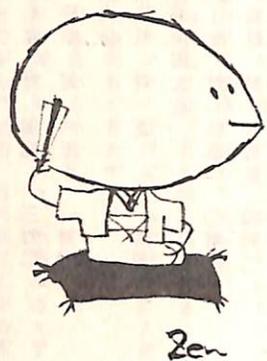
常に試合でも声を出し元気は抜群。それにレフトに飛んだ飛球をみごとダイビングキャッチバックホーム。残念ながらタッチアウトはできなかったが、そのすばらしいプレーに一同感激してしまつた。これからも安心して彼にレフトをまかせられる。

センターの橋君

彼は大変まじめな男でありまして、今までにまだ練習をさぼった事がないという大変偉い人です。特に彼のバッティングは大変な人気をあつめ、彼本来の力をはつきしています。又彼の肩もすばらしく、ランナーがサードにいてタッチアップされてもこれをな

ライト平井君

四十五年度新人戦(秋)
松原 対 瑞穂 十二対二(コールド)
松原 対 田無 六対二
松原 対 二商 一対二
練習試合
松原 対 一商 九対〇(コールド)
松原 対 大崎 七対〇



春季大会

松原 対 瑞穂 三対二
松原 対 八王子 一対〇
都大会

松原 対 芝 一対三

夏季全国大会

五日市 対 松原 〇対四
松原 対 北豊島 四対二
荒川工 対 松原 三対一

松原 対 東 一対二

松原は東京都でベスト8に入りました。

秋の新人戦

松原 対 農林 三対二
松原 対 国分寺 二対一

成績はこのようなものです。(十四試合中十勝四負。勝率七割五分。)強き抜群です。

おまけ

部員募集 ○男女問わず。

○経験不問

○野球をやる気があればいつでもレギュラーになれます。

味は、「渡り鳥」。だから活動範囲はたいへん幅広いのです。たとえば、伊豆半島一周歩き、山手線一周、東海道自然歩道歩き、山登り……etc. でも決してこわいとか危いかいいうことはありません。しいて言えば、目的地に着くまでの交通事故がこわい……!!
現在部員数は二十四名。だいたい年間計画は新人歓迎会が始まり、ホッカ訓練、夏山合宿、秋山山行、そして春山山行で終わります。少なくとも五回は行き、時には六回七回と増えていきます。

普段のトレーニングは芦花公園までマラソン(約二km)、そして柔軟、空気椅子、腹筋腕立て伏せ……etc. これは、バランスと筋肉補強を目的としています。(注意:筋肉モリモリなんてなりません。女の方はあまり気にしない事。)週二日のトレーニングは、体力的に無理ではありません。

山岳部には、女子は入部できません。でもこのワンゲルは男女問わず気楽に入部でき、また退部もできます。

山は良いものです。

朝日に輝く美しい山々、小鳥のさえずる声を聞きながらの食事、目の前に広がる雲海。

“GO BACK TO NATURAL”

山岳部

君らは自然を知っているか? 君らは自然を何だと思う? 僕にはわからない。何が自然なんだろう。人が道標をつけなきゃ、地図がなくちゃ山へ登れない。ちっとも自然じゃない。山へ行ってもバスの通う道がどこまでも続いている。登山道の回りにはゴミがいっぱい。へたをすると山の中で歩道、平らな歩道がついている。とすると僕らは本当の自然をどこで見られるだろう。学校から見ると真赤な夕焼け、でもけして回りは自然じゃない。君らは自然にアタックして自然と話し合うことができないんだ。自然の中において自然を知らない。そんな事があっていいのだろうか? 山とは限らない。僕らは自然と話し合う義務があるんじゃないだろうか? 僕らは人の作ったものの中で暮らしている。けしてそれが山にないとは言わないけれど、海にそれがないとは言わないが、町の中にはそれが多過ぎる。君らは自然を素直にみられるうちに、人の作っ



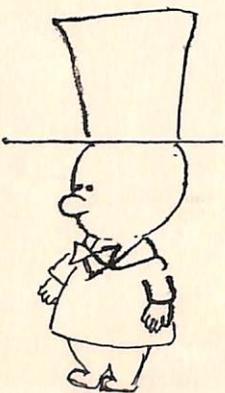
水泳同好会

プールのない松高で、水泳同好会はもっとも活動しにくいものです。しかし諸君の中に水泳が好きだという人も多いでしょう。

水泳は美容と健康に最適なのです。

えっ、同好会があってもどこで泳ぐのかわ

て?! そうです。それが一番の問題なのです。



でも、夏でも冬でも泳げるプールってあるでしょう。たとえば、下高井戸から六十円で行ける千駄ヶ谷の東京体育館室内プールなんてのが。
室温三十度、水温二十八度、中はいつでも真夏の雰囲気。寒くなんかありません。
ところで、水泳っていうと、競泳のことかと思っちゃう人がいるけど、我水泳同好会は水遊びだけでもOK。泳げなくたっていい。水が好きなら誰でもいいんだ。
スキンドайビングをやりたい君!
ダイビングをやりたいあなた!
ぐっとおしとやかに、シンクロロナイズドスイミングをやってみたいと思ってる人!
全員集合なのです。
プールに行くのは、楽しいことですよ。

ワンダーフォーゲル部

通称ワンゲル

THE WANDER VAGGLE という意

たものそんなうつわの中にいるのが平気になる前に自然と対話をしてほしい。丹沢の生命ももう少し、でもそんなことで負けないでくれ、君らは自然にうずまって自然の中もがいてくれ。不自然というからを、都会というからを破って……。別に服を破り捨てるとは言わない。けしてふるチンで歩けというのではない。ただ自然の中にいる僕らは、僕らのいる世界を正しく見なくてはならないと思うから。都会という曇った人意的なものの中からはい出して、自然を見てほしいんだ。へ行けというんじゃない。全てが自然である。自然の中にはいつ、いや、この不自然から抜け出して、自分があるいは自然をはっきり見つけ出してくれ。山の上に登って下を見た時の喜び。これも自然……。

編集後記



協力
 2470W
 LH

昭和47年3月31日

Le Coeur. 20号

協力

2470W 170
 2470W 2470W
 2470W 2470W

LA1=7
 #Hokkaido
 ニッポン
 0470W=

2907

さきだかゆり 赤木 斉藤
 山野 岩坪 白川
 柳谷 0470W 2470W
 塚田 松沢創 小笠原
 峰尾 氏木 篠崎
 ニッポン

編集は、0470W。
 0470W=

顧問は

英語科のほもと 先生

2470W
 0470W
 2470W
 0470W

編集委員

編集 松原高校生徒会誌編集委員会
 発行 東京都立松原高等学校生徒会
 印刷 K・K トーカー印刷
 東京都世田谷区松上水四一三一五

第一冊

